



愛知陸協広報

第40号

平成28年11月30日発行

一般財団法人 愛知陸上競技協会

〒460-0012 名古屋市中区千代田二丁目19番16号千代田ビル7F

電話 (052) 249-4363 ファックス (052) 249-4366

ホームページ: url <http://www.aichi-rk.jp/>

この1年

副会長 岡田 武彦

ニューイヤー駅伝のトヨタ自動車の2連覇から始まり、全国都道府県対抗駅伝では女子は鈴木亜由子選手の激走により大逆転の初優勝。男子はチームが一丸となり15年ぶり2回目の優勝と、史上初のアベック優勝と話題を独占しました。ウィメンズマラソンでは4年連続でギネス記録を更新し、オリンピック代表選考会にふさわしい1秒を争うレースでした。早いもので数競技会を残し2016年の終盤を迎えます。例年の競技会に加え、第100回日本選手権を始めとして東海選手権、全国高等専門学校大会など大きな競技会を主管、運営することができました。過密日程のなか競技者目線で大会運営に携わった競技役員、補助員の大学生・高校生など大会関係者の方々のご尽力に感謝します。

第100回日本選手権では3日間で61,000人を超える観衆の大声援に押され、女子200mでは福島千里選手の日本新記録に加え齋藤愛美選手の日本ジュニア新記録・日本高校新記録・日本ユース最高記録が誕生しました。また女子3000mSCでは転倒しながらも派遣記録を突破した高見澤安珠選手の日本学生新記録・大会新記録、男子やり投の新井涼平選手の大会新記録が誕生しました。県内競技者の活躍も大会を盛り上げてくれました。男子100m、200mのレースで大会を盛り上げた選手がリオデジャネイロオリンピックでの4×100mR日本新記録(銀メダル)と活躍したことは、陸上界のみならず多くの方々に大きな感動を与えてくれました。

今年は中学生・高校生の素晴らしい活躍が見られました。中学生では馬場勇一郎選手(豊田・上郷)、服部凱杏選手(名古屋・千種)、高須鮎香選手(岡崎・城北)等を中心に活躍してくれました。中でも馬場君、服部君は良きライバルで、全日本中学選手権(松本)では800m馬場君1位、服部君3位、1500mでは服部君1位(中学歴代2位の記録)、馬場君2位と共に大会新記録でした。馬場君は6月に800mでは33年ぶりに日本中学新記録を樹立、7月の県中学総体では更に記録を更新しました。高校生では小久保友裕選手(桜丘)、山田翔雅選手(愛知)、伊藤壮太選手(中京大中京)、森藤俊秀選手(岡崎)、白藤聖陽選手(安城学園)、浅井さくら選手(岡崎城西)、中京大中京の女子4×100mR、至学館の女子4×400mRのメンバー等を筆頭に大いに活躍してくれました。指導者の日頃のご尽力に敬意を表します。岩手国体では100m長田拓也選手(法政大)、男子4×100mR、走幅跳中野裕仁選手(名城大附高)が3種目で1位といろいろと成果はありましたが、総合的には愛知としてはやや残念な結果でした。

9月25日にはアジア・オリンピック評議会(ベトナム)において、2026アジア競技大会がパロマ瑞穂スタジアムをメイン会場として開催することが決定しました。10年後の国際大会を見据え、選手ならびに競技役員の育成が課題になると思います。

名古屋で7度目のジュニア・ユース大会開催

10月21日～23日、パロマ瑞穂スタジアムで第32回日本ジュニア・第10回日本ユース選手権大会が開かれました。天候にも恵まれ、ジュニア日本新記録(U20)が3、ユース日本最高記録(U18)が4、大会記録が延べ15、大会タイ記録が2生まれるなど、大いに盛り上がりました。また、2016JOCジュニアオリンピックカップ(最優秀選手賞)には、四国大(徳島)の幸長慎一選手(ジュニア砲丸投げ19m07:ジュニア日本新・大会新記録)、倉敷中央高(岡山)の齋藤愛美選手(ユース200m23秒45:ジュニア日本新・ユース日本最高記録・大会新記録)が選ばれました。



大活躍の齋藤愛美選手 写真提供:月刊陸上競技社

専門委員会報告

総務委員会

ジュニア日本新記録、日本ユース最高記録および、大会新記録も多く出され盛り上がりを見せた日本ジュニア・ユース陸上競技選手権大会や、翌週の東海高校新人大会をもって、2016年トラック&フィールドも終了し、ロードレースの季節へと移っていきます。これらの大会に気持ちを切り替え、犬山ハーフマラソン(2月)、マラソンフェスティバルナゴヤ・愛知(3月)に向けての準備に取りかかっています。(水野 隆夫)

競技委員会

2016年10月21日～23日に開催された、日本ジュニア・ユース選手権大会へのご協力ありがとうございました。今年度で7回目となりましたが好天に恵まれ、新記録等も例年以上に多く、とても充実した大会になったと思います。

今年度は、日本選手権に始まり、東海高校新人まで、6つの大きな競技会を終えました。それぞれの競技会では好記録が続出し、とてもよい競技会であったという声が聞かれました。

競技委員会では来年度の競技会日程の調整準備に入りました。従来の日程を基本とし、県大会や地区大会を編成していきます。特にパロマ瑞穂スタジアムは、Jリーグとの関係もあり制約された条件の中で、大会の重なりをできる限り無くしていきたいと思えます。競技者の利便性など多くの条件の中で競技日程を決めていくのは難しいのですが、多くの方々の協力を得て調整を行ないます。競技日程の変更や会場の変更をお願いしなければならない大会もあると思われまます。ご理解、ご協力のほどよろしくお願ひします。

競技会におきましても、多くの問題も浮き彫りになってきました。競技場の制約、特に参加者の増加に伴い競技運営が困難になってきました。参加制限や標準記録等の見直しをし、出場競技者がよい記録を出せることと、競技役員にも過重な負担をかけないことなども考慮していかなければなりません。よい案、ご意見等ありましたらお聞かせください。(榊原 茂)

施設・用器具委員会

2016年度検定関係

(1) 名古屋ウィメンズマラソンコース検定について

8月10日(水)・11日(木:祝)に下記のように実施し、日本陸連、マラソン事務局、愛知陸協施設用器具委員会、愛知県警、ガードマン等の多くの方々のご協力で無事に終了しました。

今回の大きな特徴は、次の3点です。①カリブレーションコースを交通状況のためドーム内駐車場に設営し変更したこと ②愛知県警のご協力により、隊列後方にパトカーが加わっていただき、自転車計測が例年よりさらに安全に検定ができたこと ③計測の結果全長が長くなったので、距離調整のため、堀田の折り返しで短くしたこと



自転車計測

8月10日(水)

時間	作業内容
11:30	・平塚委員長・計測員 名古屋駅着 迎え：青木
12:45	・事務局員集合
13:00	・関係者集合(ナゴヤドーム駐車場) ・日程確認
13:30	・カリブレーションコース設営 コース設営：愛知陸協(交通整理：事務局)
14:10	・ドーム駐車場敷地内コース視察(ドーム内は視察不可)。
14:30	・マラソンコース視察、5K毎のポイント・コース取り確認 1号車：○青木、桑原、平塚、平川、砂子間、井口 2号車：○森、外山、北野、宮崎、永田、渡邊、大塚
17:30	・明日の日程確認・解散
17:45	・ホテル着 (平塚、平川、青木、吉越、砂子間)

8月11日(木:祝)

時間	作業内容
4:00	・集合(ナゴヤドーム駐車場)
4:15	・プレカリブレーション実施 ※カラーコーン2個用意 計測員：平塚、桑原、平川 愛知陸協：青木、吉越、砂子間 事務局：渡邊、大塚、亀井、門内 ・ドーム駐車場敷地内およびドーム内のコース設定 事務局：外山、北野、宮崎、永田、井口、桑山、荻田 テツ：森 ハマステージ：浜地
4:45	・P点(歩道上)～ドーム内コースフィニッシュ 地点の計測 ※プレカリブレーション実施後速やかに計測開始
5:15	・スタート地点～P点の計測 ・ポストカリブレーション実施
8:30	・計測員はホテルに戻りシャワー・朝食。 ・事務局員はホテルに集合(8:20)し、会議室準備

クラブ紹介③ たかはまジュニア陸上クラブ

“限界の向こう側まで駆け抜けろ”これがチームのスローガンです。自分の限界を決めず、真に挑戦する者こそ新たな世界を見ることができる、そんな願いが込められております。

陸上競技不毛の地であった高浜。2009年に地域の保護者から依頼を受けて開いたミニ陸上教室から発展し、9人の志ある小学生とともに当チームが産声を上げました。猫の額ほどのスペースでの基本練習が第一歩。「個性は武器なり」「伸びしろを残して次のステップへ」を基本方針として選手本位の指導を意識しています。指導者選びに苦労しましたが、今では小学生70人、練習生として中学生20人が在籍し、県大会上位入賞者、東海、全国大会への出場者も輩出するようになりました。“無謀な挑戦”ではありませんが、高浜市を代表する唯一の陸上競技母集団に成長しました。保護者、地域の方々など多くの支援の賜物です。

練習は水、土の週2回、地元の小学校等で行なっておりますが、志ある選手はウェーブスタジアム刈谷で月、金もライバルを探しながら練習を行なっています。「チャンスは無限。チャンスボールにはチャンスとは書いていない。これだと思ふボールは逃げずにしっかりと受け止め、自分の可能性を信じ、限界にチャレンジ。道は必ず開け、違った世界(限界の向こう側)を見ることができる」の考えの



水曜日の練習小学生全員集合

もと見違えるほど選手達が成長し、「自習自練」、「成功の要諦は成功するまでやること」という高い精神性が育まれています。今後は、2校しかない中学校の選手を強化育成する仕組みも作りたと思います。

そして、第1期生が大学生となりました。選手として光り輝く競技生活を送ってもらうことを祈念し、鮭が産まれた故郷に帰るように、充実した競技生活を終え、生まれ育った陸上の地に指導者として戻り、新しい風を吹き込む。こんな構造が確立されるといいなと思います。昭和の頃からご尽力された元校長先生あつての今の土壌。

不毛の土壌に我々が撒いた一粒の種。最初の収穫を迎える2020年、東京に期待!! (宮崎 喜章)

8:50	・ホテル2階「イベントホールC」集合 ・計算、報告書作成
10:30	・講評(平塚計測員より)青木、桑原、平川、岡本、北野、宮崎、永田
11:00	・平塚委員長帰宅、事務局解散
11:00	・5K毎のポイント作成作業(愛知陸協)青木、桑原、平川
14:30	・終了、愛知陸協担当者解散

(2) 中京大学梅村陸上競技場3種検定について

9月22日雨天の中、早朝5時30分から検定を開始しました。距離計測、レーン幅計測、レベル計測、施設計測、ハードルインターバルチェック、角度計測(マーキングチェック)、用器具点検、報告書作成、講評等で16時に終了しました。世界で多いトラックの内側に3000mSCの大障害水壕がある陸上競技場でもあり、県内で唯一です。



大障害 水壕

(3) 今後の検定スケジュール

- ①犬山ハーフマラソンコースのフィニッシュ地点変更に伴う検定
 - ②至学館大学4種陸上競技場検定事前指導
 - ③知多2種陸上競技場検定(公認期間2017.3.31まで)
 - ④白谷海浜公園4種陸上競技場検定(公認期間2017.3.31まで)
 - ⑤豊川3種陸上競技場検定(公認期間2017.3.31まで)
 - ⑥豊田運動公園2種陸上競技場検定(公認期間2017.8.31まで)
- (青木 実)

審判委員会

11月20日(日)に愛知県教育会館にて2016年度後期B級審判資格取得講習会を行ないました。20名の方に受講していただき、全員無事取得され、平成29年4月1日付けで新たに公認審判員の仲間入りをします。ご指導をよろしく願います。

また10月20～22日の3日間にわたり開催された、第32回日本ジュニア・第10回日本ユース陸上競技選手権大会には、多くの審判員のご協力が無事に終わることができました。また本年度は日本選手権大会をはじめ全国・東海地区の大会と続き、審判員の皆様には休む暇なく競技の運営、準備等にご協力いただき誠にありがとうございました。

今後は3月に開催されるウィメンズマラソンの準備等よろしく願います。(小森 好治)

選手強化委員会

10月7日(金)～11日(火)の5日間、岩手県の北上総合運動公園北上陸上競技場において、第71回国民体育大会「2016希望郷いわて国体」が開催されました。本県からも選手29名(男子15名・女子14名)、スタッフ12名、トレーナー3名の42名が参加をしました。今年のチーム愛知は、ランキングからはじき出された獲得予想得点が100点に迫る高得点で、昨年之和歌山国体で逃した天皇杯8位入賞を取り戻すには、心強いチームとなっていました。3回の合宿・練習会を経て、今年の合言葉「勝ちに行く!」を胸に、選手それぞれ全力で頑張りました。世界陸上日本代表の長田拓也選手を男子キャプテン、市川華菜選手を女子キャプテンに据え、チーム愛知として1つにまとまって

当日を迎えることができました。

初日、少年女子 A 100m 東直美選手(豊橋南高)・少年男子 A 100m 中澤悠哉選手(豊川高)・少年女子 B 800m 細井衿菜選手(中京大中京高)・少年共通 800m 山田翔雅選手(愛知高)・円盤投 中井康二選手(中京大中京高)・成年男子円盤投 湯上剛輝選手(トヨタ自動車)の6人が、チーム愛知の先陣を切って登場しました。それぞれ持ち味を出しての戦いでした。東・中澤・中井・細井の4選手は、力を出し切れず涙の敗退となってしまいました。重たい空気を一新してくれたのが湯上選手でした。本年度日本選手権で3位入賞と勢いに乗る湯上選手は、順調に記録を伸ばし55m82の好記録で、見事3位入賞を果たしてくれました。成年円盤投の選手の中では、誰もが恐れる湯上選手のセンス。今後日本の第1人者として活躍してくれるでしょう。初日のチーム愛知は僅か1種目入賞で6点獲得、天皇杯23位と大きく出遅れてのスタートでした。

2日目は、昨日の気温20度を超える温かさとは打って変わり、最高気温13.7度で冷たい雨が降りしきる最悪のコンディションでした。この日登場したのが、少年女子 B 100m 高須鮎香選手(城北中)・少年男子 B 100m 森 皓平選手(名古屋大谷高)・成年女子 100m 杉山美貴選手(中京大)・成年男子 100m 長田拓也選手(法政大)・成年女子 800m 向井智香選手(名城大)・少年女子 A 走幅跳 澤井萌奈選手(中京大中京高)・少年女子共通棒高跳 高田彩佳選手(岡崎城西高)・円盤投 川口紅音選手(津島高)・少年男子 A ハンマー投 白藤聖陽選手(安城学園高)の9人に、前日見事決勝進出を決めた山田選手の10人でした。残念ながら森・杉山・向井・高田・川口の5選手は、決勝進出は果たせませんでした。今後に期待が持てる競技でした。5人の悔しさは、まず澤井選手が晴らしてくれました。昨年この種目のB(高校1年・中学3年)のカテゴリーで優勝し、2年連続インターハイ入賞の彼女は、上級生を相手に堂々とした跳躍を見せ、5m89の4位入賞を果たしてくれました。6mを狙っての国体だったため彼女の眼には悔し涙が溢れていましたが、彼女の勝負強さにはスタッフ一同脱帽でした。続いて入賞したのは山田選手。インターハイチャンピオンである彼には、愛知県の陸上ファンからの期待も大きく、プレッシャーも大きかったと思います。インターハイ後思うように走れず、もがき苦しんでいた彼の調子は、予選・準決勝を見る限り戻ってはいないように感じました。不安な気持ちと期待でベンチから送り出す時、彼の口からは「優勝してきます！」の言葉が。レースが始まってみると、トラックを走っていたのは昨日の彼ではなく、優勝宣言をしたインターハイチャンピオンの彼でした。残念ながら優勝には僅か届かなかったものの、1分55秒89で2位入賞を果たしてくれました。こうなるとベンチもイケイケムードに。インターハイでは涙の敗退であった白藤選手が60m15の好記録で、4位入賞を果たしてくれました。本番を迎えるまでの時間、山本投擲主任コーチとマンツーマンに近い練習により、安定した投擲ができるようになっていました。彼のチーム愛は誰もが知るまさしく「チーム愛知」でした。さらにチームでただ1人の中学生、高須選手が頑張ってくれました。今季11秒87の記録を出している彼女は、笑顔の素敵な自信に満ち溢れたレース運びで6位入賞でした。この日チーム愛知最後の決勝は、日本代表経験もある長田選手でした。山懸・ケンブリッジ選手の対決が注目を集めていた成年男子100mで

したが、急病により欠場のケンブリッジ選手と、準決勝から棄権をした山懸選手。昨年100分の1秒差で涙の2位であった長田選手に、普段言わない言葉をかけました。「2人のいないレース。こんなチャンスはない。日本陸連に、長田の存在をアピールするために優勝して来い！」と。彼は笑顔で頷き見事優勝して帰ってきました。帰りに出待ちしていたファンたちに囲まれ、照れくさそうにしてサイン、記念写真を撮っているあの笑顔は忘れられません。



長田拓也選手

3日目は成年男子10000mW 山田康太選手(順天堂大)・成年女子400m 檜山 楓選手(至学館大)・少年女子 A 400m 時久彩音選手(至学館高)・少年男子400m 小久保友裕選手(桜丘高)・少年男子共通110mH 八代貢輝選手(名古屋高)・走高跳 藤森俊秀選手(岡崎北高)・少年女子共通三段跳 糟谷友里選手(名古屋商高)・やり投 石本 瞳選手(名古屋大谷高)の8人の登場でした。檜山選手と時久選手は残念ながら敗退はしましたが、積極的なレース展開でチーム愛知の雰囲気を通り攻めに攻めた結果の敗退でした。この日最初の決勝種目は糟谷選手でした。彼女も夏以降調子を落とし、不安を抱えての当日でした。しかし不安を吹き飛ばす12m台の跳躍を見せ、12m06で見事8位入賞を果たしました。続いての登場は山田選手。この日が来るのを楽しみにしていたかのような笑顔で、上位入賞宣言をして競技場に向かって行った彼は、スタート直後から飛び出して行く実力者たちに惑わされることなく、終始冷静に自分のスタイルを貫いての競技でした。後半少しずつ追いついて行き、ハイペースで飛ばす上位で失格者が出てきている中で、見事6位入賞を果たしました。2種目の入賞をピット内で確認している藤森選手。インターハイで腰を痛め選手変更の動きもあった彼ですが、我々の不安を裏切る跳躍の連発でした。残念ながらインターハイとの2冠は逃しましたが、堂々の2位入賞となりました。上位入賞者も出てベンチの雰囲気も一気にヒートアップした中、石本選手が登場。昨年この国体を経験しており、インターハイでも入賞をしている彼女は、落ち着いて競技開始を待っていました。50m台を出し上位入賞を目ざしていた彼女の投擲は、今年の彼女とはまったく違っていました。残念ながら50mに届くかと思わせる投てきが、突然の強風にあおられラインから外れてしまいましたが、46m78で見事7位入賞をしてくれました。この日最後の決勝種目は八代選手でした。番組編成の作り直しというパタパタした状況で始まりましたが、インターハイ東海予選でのフライング失格で消えた夢を掴み取るため、決勝のスタートラインだけを考えて、予選・準決勝と冷静にレースを進めていました。決勝では14秒19というタイムで、7位入賞をしてくれました。八代選手は準決勝で、13秒99という県高校新記録・県ジュニア新記録も樹立しました。5種目の入賞で勢いに乗るチーム愛知の3日目を締めくくるのは、男女4×100mRでした。「県の強さをアピールするのは、リレー種目である」を合言葉にしている愛知県選抜リレーチーム。予選はスタンドの観客からも「やっぱり愛知か。早いわけだ。」との声も聞こえる走り、余裕を持った予選通過でした。

4日目は成年女子100mH 小林紗矢香選手(愛知教育大)・走高跳 浅井さくら選手(岡崎城西高)・少年男子A 400m 小久保友裕選手(桜丘高)・少年男子B 3000m 大上颯麻選手(豊川高)・走幅跳 中野裕仁選手(名城大附属高)の5人と、リレーの準決勝でした。小林選手は今季日本選手権で入賞し、さらに全日本インカレで優勝もしており、気分も最高の状態で岩手県入りしていました。「やっと出番が来た〜。」と言いながら予選に向かう彼女の表情は、今にも顔が崩れてしまいそうな笑顔でした。その言葉通り、貫禄さえ見えた余裕の予選1着通過でした。決勝前も応援団に笑顔で手を振る余裕の彼女は、スタートから他の7人を寄せ付けない素晴らしい飛び出しを見せ、本当に優勝するのではないかと思わせるレースで駆け抜けて行きました。惜しくも90m付近で抜かれてしまいましたが、見事な2位でのフィニッシュでした。その後に登場したのが、前日の予選、当日の準決勝を彼らしいレース展開で通過した小久保選手。前日発熱で出場も心配したスタッフでしたが、決勝は前半から飛ばし1位で最後のコーナーを抜けてきました。しかし残念ながらそこから失速してしまい、47秒91のタイムで4位入賞でした。トラックで盛り上がる中、高校生ながら今季日本ランキング1位の浅井選手が、成年選手に交じって奮闘していました。優勝の期待が高まる中で苦しい跳躍の連続でしたが、彼女の意地を見せ付けられました。自己記録には遠く及ばない1m69という記録でしたが、8位入賞で貴重な追加点を獲得してくれました。残る決勝種目は中野選手。彼もベンチを出るときに力強く笑顔で「優勝してきます。」と、優勝宣言して出かけて行きました。彼もまたインターハイ以降調子が上がらないまま、不安を抱えての当日でしたが、宣言通り力強い跳躍の連続で、抜かれたら抜き返すという観客には痺れる競技を展開していました。そして宣言通り7m15の記録で、チーム愛知2人目の全国チャンピオンの誕生でした。男女リレーも無事に準決勝通過の予定でしたが、男子についてはオーバーゾーンの旗が上がるのと同時にマークが置かれ、すぐにTICへ駆け込める準備をして結果発表を待っていました。結果的には問題なしと判断され、無事男女揃って決勝進出を決めてくれました。この失格騒動で、男子チームはさらに結束をしたように感じました。



中野裕仁選手

いよいよ最終日の朝の愛知県のベンチへ向かうと、競技が終了した多くの県のテントはすでに片付けが終わっており、入り口は閉ざされたままでした。選手・所属チームの指導者の皆さん・全スタッフたちの1年間の頑張りのお陰で、毎年のように優越感を味わうことができ、感謝の気持ちでいっぱいになります。最終日4種目中3種目に出場する我らがチーム愛知。少年男子B 3000m 大上選手と男女リレー。競技の終わった全選手とスタッフ総動員で応援部隊を作り、愛知県から応援に来てくださった方々も巻き込んでの大声援を送りました。大上選手は本来の切れのある走りができず、残念ながら14位という結果に終わってしまいました。しかし、再び訪れた男女リレーアベック優勝のチャンス。応援団の沈んでいる暇はありませんでした。女子リレーは1走高須・2走杉山・3走東・4走市川

のオーダーで、宿敵北海道に挑みました。大きなミスもなくレースは流れて行きましたが、結果は4位でした。2位は確実に予想していただけに、非常に残念な結果に終わってしまいました。続く男子リレーは1走森・2走高橋・3走中澤・4走長田のオーダーでスタートしました。100mで何かを掴んだのでしょうか。第1走者の森選手は、予選・準決勝と1番でバトンを渡すという、素晴らしい走りを披露してくれていました。この決勝も内側の神奈川に最後差されるも、2番手争いをする好走をしてくれました。2走・3走とミスもなく、アンカーの長田選手へとバトンは繋がれました。しかしその時の順位は5位でした。チーム愛知は誰1人として諦めず、全力で応援を続けていました。前を行く4チームを猛追する長田選手でしたが、その少し前でどんどん順位を上げていたのが、静岡のアンカー飯塚選手でした。静岡に先行されている勝ちはないと思ったゴール直前のその時、長田選手が飯塚選手はもちろんすべてのチームを抜き去る瞬間が、大型スクリーンを見ていた私の目に飛び込んできました。年甲斐もなく涙を流しながら大声を出して、スタッフと抱き合っていました。チーム愛知3つ目の優勝とともに、最終種目での劇的な優勝で愛知県は強いと印象付けて終わった5日間でした。同時に天皇杯8位入賞が決まり、ホッとした瞬間でした。

5日間を通して最後の最後まで「勝ちに行く!」を実践してくれた選手たち。強化委員長就任2年目の国体は、大きな感動の中にも悔しさの残る5日間として終わりました。しかし、今回のチーム愛知のこの粘りは、選手はもちろんスタッフにも来年への力を与えてくれました。12月から愛媛国体へ向けて、再出発をしていきます。さらなるご理解とご協力・ご支援をお願いいたします。

大会期間中激励に駆けつけてくださった愛知陸協の皆様、支援コーチの先生方、毎日深夜まで選手のケアをしてくださったトレーナーの皆さん、各選手の所属チームの監督・コーチの皆様には厚くお礼を申し上げます。



選手全員集合

(明星 光信)

記録・情報処理委員会

トラックシーズンを終えて

今年度は、恒例になっています全日本ジュニア・ユース大会に加えて、日本選手権・東海選手権大会・東海高校新人選手権大会・全国高等専門学校陸上選手権大会と、大きな大会が連続するという日程でしたが、皆様方のご協力のおかげで支障なく運営することができました。いずれの大会も、大会記録だけでなく、日本新記録、日本最高記録など、記録に恵まれたシーズンでもありました。特に、全日本ジュニア・ユース大会は、瑞穂競技場での回数を重ねて

学校訪問③〇 甲山中学校 今年度県中学総体女子の部総合優勝

今回は、今年度県の中学総体で女子の部の総合優勝を成し遂げた甲山中学校を訪問しました。一人や二人の力では、総合優勝は成し遂げられません。部全体としての力が必要です。それをよく物語っているのが、4×100mRです。長野で行なわれた全日中でも2位に入るめざましい活躍でした。リレーで活躍するということは、部全体の総合力を示すものであり、そこには必ず強さの秘訣があるはず。その秘訣を探るつもりで、今回も取材をしました。

強さの秘訣の一つめとして、地の利を挙げておきます。校名に「山」の字があるとおり、甲山中学校は高台にあります。学校訪問をする前に東岡崎の駅から歩いて20分ほどだと聞かされていたのですが、歩いて容易に行ける道のりでもありませんでした。駅からしばらくするとゆるやかな上り坂がずっと続いているのです。西三河陸協の理事長である櫻井先生に車で送ってもらわなければ、膝を傷めている私はさぞかし難儀をしただろうと思われました。この通学路を毎日通っているのですから、自然と足腰が鍛えられていると思わずにはられません。学校に着いてみると、もう一つの地の利があることが分かりました。正門が一番高いところであって、校舎へは坂道を下らなければなりません。グラウンドは更に一段低いところがありました。この高低差をうまく利用して、中長距離グループは練習を積んでいました。平地を走るよりも負荷がかかり、練習効果が2倍にも3倍にもなっているのではないかと思います。そのうえ徳 齊尚先生は中長距離の選手たちを4グループに分け、タイムと距離をグループの強弱に合わせて細かく設定しておられました。地の利と細かな配慮のもと、選手たちは力をつけてきたのでしょう。



坂道を使った練習



ずらりと並んだ優勝旗

この日は雨の影響もあって、中長距離以外のグループは校舎内の廊下を使っての練習でした。校舎内に案内された私は、職員室付近にあった展示物にすっかり目を奪われてしまいました。そこには優勝旗や優勝杯がずらりと並んでいたのです。短距離グループを主に見ておられる藤田欣子先生からは、「去年はもっとたくさん並んでいました」とお聞きしました。先に部全体としての勢いということを書きましたが、甲山中学校には学校全体としての勢いがあるように思われました。各部が競い合っているというわけでもないのですが、陸上部の活動が学校全体の活力の中で自然と押し上げられているように思われました。この点を櫻井先生にお話しすると、「学校ばかりじゃないよ。西三河全体に活力が出てきているからね」とのお話でした。西三河地区は今年度、一般の部で山本聖途選手がリオのオリンピックに出場したのを始めとして大学・高校・中学校・小学校全てのカテゴリで全国大会の優勝者を輩出（西三河陸協の記事参照）しています。櫻井先生は、「地区陸協の強化委員会の活動が実りをもたらした」ともおっしゃっていました。

校舎内での練習はスピードを出すわけにはいかず、基本運動、基礎トレーニングが中心でしたが、その中で目についたことを一つ挙げておきます。それは、藤田先生が姿勢のことを強調されていたことです。そのことを意識して選手たちの姿勢を見てみると、最近よく目につくスマホ肩（猫背）やスマホ首といった姿勢の選手は見受けられませんでした。猫背の人はお尻が後ろに突き出す形になります。これでは重心が体の後ろ側



弓なりの姿勢



前足部荷重の立ち姿

に行ってしまう、効率よく体を運ぶことができません。立っている時には踵荷重になり、やはり重心が体の後ろ側に行ってしまう。先生の話聞く選手たちの立ち姿勢を見てみると、中には前足部（土踏まずの前の広がりのある部分）に荷重している人が多いことに気づきました。さらに基礎練習の腰入れのところでも、頭から腰にかけての形が円弧を描くと言うか弓なりになると言うか、この形を強調しておられました。短時間の練習でしたので普段の指導のごく一部しか拝見することができなかったのですが、藤田先生は指導の軸となるものをお持ちなのだろうと思いました。

最後に指導体制を挙げておきます。甲山中学校の陸上部には四人の顧問の先生がいらっしゃいます。短距離グループと中長距離グループの二つに分かれて、それぞれにお二人ずつです。短距離グループは藤田先生が主顧問で、そこに河澄 崇先生が副顧問として、中長距離グループは徳先生が主顧問で、そこに久嶋晃乃先生が副顧問としてついでおられます。私は公立高校に勤めておりますので中学校の事情は分かりませんが、4人というのは恵まれた形ではないでしょうか。高校では私学で4人以上の顧問を数える学校がありますが、公立高校では聞いたことがありません。主顧問のお二人がパートに別れてそれぞれ専門性を生かした指導をなさっているので、きめ細かな指導となっているのだらうと思われました。この日の訪問の短時間の間にも、それは十分にうかがうことができました。また、副顧問の先生方がいらっしゃることで、生徒たちは先生が不在で困るということが少ないのではないのでしょうか。生徒一人ひとりに行き届いた指導ができるこの体制も、県中総体総合優勝の大きな力になっていたに違いありません。ただ誤解のないように、先生方の指導が技術指導に偏っているのではないように思われたことを申し添えておきます。先生方のお話を聞く生徒たちの姿勢はまっすぐで、話される先生方の目をしっかりと見ていました。日頃からの指導は、技術を高めることばかりにあるのではないように私には感じられたのです。

西三河地区は、学校間の対抗意識が強いとお聞きしたことがあります。地区全体が力を発揮している中で、甲山中学校の活躍もしばらくは続くのではないかとこの思いを抱きながら、私は帰途につきました。

(取材文責：大西敏功 写真：櫻井一美)

まいりましたが、「記録の出る大会」という声も多く聞かれるようになり、競技者のコンディションを考えた競技運営をしていただいている結果であると感謝しております。

今年度は、中学校の大会において Web による申込みを進めてまいりました。操作面や参加料の算出などまだ改善の余地がありますが、今後も安定して使用できるシステムを目ざして、ニシ・スポーツと連携をとりながら改良を進めていきたいと思ひます。

瑞穂競技場の運営システムにつきましても、毎年の競技規則の改正に速やかに対応するように働きかけるとともに、次年度のトラックシーズンに向け、不具合の解消・より効率的な運営を目ざして、メーカーとの連携・改善を進めていきたいと思ひます。

また、運営面では、全日本ジュニア・ユース大会や東海高校新人大会で、インターネットでの結果速報を実施しました。今後県大会以上のものについては、すべて実施できるように、機器・システムについて準備を進めていきます。陸上競技大会を、記録を通して多くの方に身近に感じていただけるようにしていきたいと思ひます。(石鎚 一則)

女性委員会

2016 年度もトラックシーズンは終了しました。

広報 39 号で、県レディース陸上競技大会の報告をさせていただきましたが、この大会では 3000mSC の後藤梨奈さん(岡崎城西高)と三段跳の粕谷友里さん(名古屋商高)の優勝記録が県高校新記録という素晴らしい記録でした。この二人の素敵なお優勝の笑顔を今号では写真で紹介したいと思います。二人の選手は、この後開催された愛知県陸上競技選手権大会でも優勝、粕谷選手はこの大会においても、12m29 と県高校記録を更新しました。二人とも高校 3 年生です。若い二人の活躍はこれからも大変楽しみです。応援していきたいと思ひます。



三段跳優勝
粕谷友里さん(名古屋商高)



3000mSC 優勝
後藤梨奈さん(岡崎城西高)

陸上競技はロードのシーズンとなりました。今年度も 3 月に名古屋ウィメンズマラソン 2017 が開催されます。女性だけのマラソン大会であり、国内でも注目の大会です。女性の大会という事もあり、多くの女性審判員が必要です。この広報でも審判の呼びかけをしたいと思ひます。女性審判員の皆さん、この大会を是非お手伝いください。よろしくお願ひします。(谷崎 好美)

各地区報告

名古屋地区陸上競技協会

トラックシーズンをほぼ終えて

今シーズンの名古屋地区は 4/2・3 の第 1 回名古屋地区陸上から始まった。今年も参加者が多くプログラム編成が大変であった。5/7・8 知多で第 2 回名古屋地区陸上を開催した。8 日には名古屋市で市の障害者スポーツ大会がパロマ瑞穂スタジアムで開催され、河村名古屋市長の挨拶から始まり、多くのボランティアの運営に支えられ無事終了した。6/4・5 は愛知選手権の名古屋地区予選会を開催。4000 人を超える参加者があり、走幅跳は同時に 3 ピットで競技することになるなど、審判の配置を含め競技運営にも多くの問題が残った。

6 月一番のイベントは日本選手権で、3 日間で延べ 6 万人を超える観客が来場した。特にリオオリンピックの最終予選とあって激しい戦いが繰り広げられた。名古屋地区からは田村朋也選手(名古屋大谷高→中京大→住友電工)が 400m で 4 位に入賞し、ロシアチームの欠場により 4 × 400mR でオリンピック初代表が決定した。また日本選手権のために棒高跳マット、走高跳マット、ハードル審判用イス、パラソルなどが新規購入され運営では大いに役立った。

8 月には全日本中学陸上が長野県松本市で行なわれ、男子 1500m では服部凱杏選手(千種)が 3 分 54 秒 79 で優勝し文部大臣賞を獲得した。また名古屋地区からこの大会に近藤鷹之先生(牧の池中)、加藤聡先生(富貴中)の若手コーチ 2 名が派遣された。また全国高専大会もあり審判員が少ないということで運営が心配されたが中京大中京高校、名古屋大谷高校が補助員として活躍し、無事終了することができた。10 月には名古屋地区選手権・競技会を実施し、県選手権名古屋地区予選に匹敵するほど多数の参加があったが、190 名を超える審判員の支えによって無事終了した。その他、本年度のパロマ瑞穂スタジアムでは、年間 27 台を数えるハードルの破損が目立ち、また投てきサークルの大規模修理などが行なわれた。(砂子間秀明)

尾張陸上競技協会

2016 年度のトラックシーズンはほぼ終わりにさしかかりました。今後は駅伝大会・ロードレース大会と休みなく大会が開催されます。尾張地区の審判員に負担が増加するなか、各大会が円滑に終了することができるよう引き続きご協力をお願いいたします。

今シーズンは、多くの好記録が誕生しました。中でも高校生は岡山インターハイに 6 名が出場し、川口紅音選手(津島)は女子円盤投で 5 位に入賞しました。また小学生交流大会に出場した男子 4 × 100mR で AC 一宮チーム(佐藤元哉・池田駿太・中西享琉・石田大河)が 3 位入賞と大健闘しました。

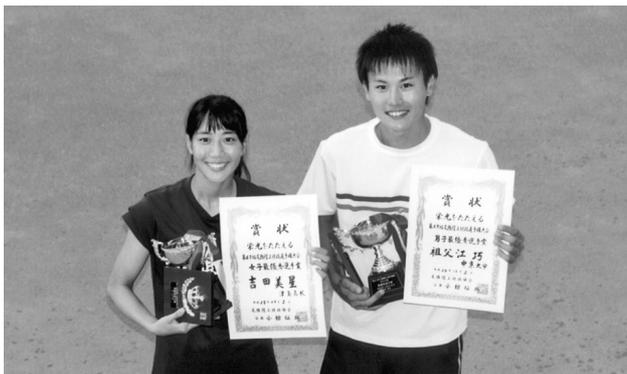
なお、県高校新人戦では多くの選手が 6 位以内に入賞し、東海新人戦に出場いたしました。大会では男女ともに 5 名が入賞し、来シーズンに向け明るい展望が開けています。

10 月 1・2 日に開催した尾張陸上選手権では、各種目優

勝者にカップを授与し、更に最優秀選手賞に男女各1名を選出し表彰しました。この大会は多くの好記録・新記録が誕生しました。シーズンしめくりにふさわしい大会となりました。

尾張陸上競技選手権大会新・尾張新・尾張中学新記録樹立者

	種目	氏名	所属	記録	備考
男子	400m	祖父江 巧	中京大	47.69	大会新
	1500m	日野 蓮	佐屋高	4.04.51	大会新
	110mH	吉田 潤平	滝 高	15.19	大会新
	4×100mR	渡邊 麻仁 服部 雅之 祖父江 巧 児島 大樹	中京大	42.00	尾張新
	4×400mR	横井 海都 坂田 智裕 蔵 浩暉 蔵 啓太	一宮高	3.22.49	大会新
女子	100m	大城 珠利	弥富中	12.32	尾張中新
	200m	大城 珠利	弥富中	25.44	尾張中新
	800m	高橋 郁乃	中京大	2.15.38	大会新
	400mH	吉田 美星	津島高	1.02.76	大会新
	三段跳	丹羽 智未	三重高	11.38	大会新
	ハンマー投	田口 優	中京大	52.17	尾張新



最優秀選手賞受賞者 (吉田美選手・祖父江選手)

尾張陸協の競技会運営方法の工夫を前回に続き紹介します。今回は跳躍のトップエイト表示板です。グラウンドが全天候型に改装された7年前に表示板の本体だけは購入してもらっていましたが、しかし記録を記入するアクリル板がなく、活用できない状態でした。これも風の表示板と同様に、跳躍審判員の1人がホームセンターでアクリル板を購入し、手作りしました。トップエイトにおける順位の変動が観客席からよく分かるようになり、競技が盛り上がりを見せるようになりました。スムーズな運営というばかりでなく、競技会の雰囲気作りに寄与した器具です。



手作りの表示板

(小島 末広)

西三河陸上競技協会

1968年に開場し、長年「ケンエイ」の愛称で、多くの県民、特に岡崎市をはじめとする西三河地区のスポーツ愛好者に親しまれてきた「愛知県岡崎総合運動場」が、愛知県から岡崎市へ移管されるという発表があった。これを機に、岡崎市では現在の競技場を、全天候型トラックを有する3種陸上競技場に整備するという計画も後日紙上にて発表された。現在の競技場は来年度から使用ができなくなり、新競技場は2020年開場予定とのことである。岡崎市は陸上競技の盛んな都市であり、選手や関係者にとって新競技場建設は長年の夢であった。そして今、念願が叶うこととなり、移管にご尽力くださった皆様方のお力添えに謝意を示しておきたい。



岡崎県営グラウンド

次に、記録的な暑さを残したこの夏、当地区選手達の活躍は目を見張るものであった。まず、海外の大会に出場した選手を紹介したい。8月のリオデジャネイロ・オリンピック。中村明彦選手(岡崎城西高⇒中京大⇒スズキ浜松AC)が十種競技に、山本聖途選手(岡崎城西高⇒中京大⇒トヨタ自動車)が棒高跳に、ともにロンドンに続き連続出場した。出発に先立ち、2人の母校である岡崎城西高校体育館で壮行会が盛大に実施された。大会の結果は今一步であったので、是非、次期東京大会でのメダル獲得を期待したい。中国浙江省寧波市で開催された日・韓・中ジュニア交流記録会には浅井さくら選手(岡崎城西高)が走高跳に出場し1日目2位、2日目1位という結果だった。



岡崎城西高壮行会

9月、パリで開催されたデカネーション2016には、山本聖途選手が棒高跳に出場し5m60で2位、浅井さくら選手が走高跳に出場し1m76で4位という結果だった。



浅井選手

次に、国内でも多くの選手が大活躍した。熊谷で開催された日本インカレ。棒高跳の鈴木康太選手(岡崎城西高⇒中京大)と100mHの小林紗夕香選手(安城学園高⇒愛知教育大)が優勝。小林選手の優勝記録は24年ぶりの県記録更新だった。その他にも、走高跳で水谷 来選手(岡崎城西高⇒中京大)が5位。棒高跳で高田 凌選手(岡崎城西高⇒中京大)が6位。400mで松本扶弥選手(岡崎城西高⇒愛知教育大)が8位という結果だった。

また、岡山で開催された高校総体では、男子走高跳の藤森俊秀選手(岡崎北)と女子走高跳の浅井さくら選手がアベック優勝。砲丸投で白藤聖陽選手(安城学園)が2位。100mHで古橋佳奈選手(安城学園)が6位という結果だった。

さらに、松本で開催された全日中では、800mの県予選において日本記録を更新した馬場勇一郎選手(豊田・上郷)が同種目で優勝。さらに1500mでも2位。4×100mRで岡崎・甲山中(鳥居芽生・永井絵理香・田中海来・谷口琴音)が2位。100mの高須鮎香選手(岡崎・城北)も4位

という結果だった。

最後に小学生の日清カップでは、女子4×100mRで岡崎 JAC(藤井鈴奈・土居幸愛・藤江美空・北田野々花)が昨年に続き優勝という結果だった。

ひとえに日々熱心に選手の指導にあたってみえる、各チームの先生方の努力のおかげで、全ての年代において全国大会の優勝者が誕生という成果を残すことができた。この成果の要因を他のチームとも分かち合い、強化委員会が中心となり、西三河が一体となって選手育成に取り組んでいける日が来ることを願っている。(櫻井 一美)

東三河陸上競技協会

2016年度のトラックシーズン最大の出来事は、6月に地元愛知で行われた日本選手権の10,000mで、豊橋出身の鈴木亜由子選手(日本郵政グループ)と豊川高校出身の関根花観選手(同)がワンツー・フィニッシュをして、リオ五輪出場を決めたことです。リオで十分に力を発揮できなかった二人には、4年後の東京五輪でのリベンジを期待しています。

この二人に刺激されたかのように、東三河の小中高校生も例年になく活躍をしてくれました。

まず高等学校では、岡山で7月29日～8月2日に行なわれた全国高等学校総合体育大会に、6校から個人14名とリレー3チームが出場を果たしました。そして、男子400mで小久保友裕選手(桜丘)が優勝、女子100mで東直美選手(豊橋南)が5位、男子八種競技で柴田一瞬選手(豊川)が7位、男子100mで中沢悠哉選手(同)が8位に入賞しました。

中学校では、長野で8月21日～24日に行なわれた全日本中学校陸上競技選手権大会に、10校から14名が出場を果たしました。そして、男子800mで柳本匡哉選手(南稜)が4位に入賞しました。

小学校では、神奈川で8月20日に行なわれた全国小学生陸上交流大会に、田原陸上クラブとJACあつみからそれぞれ2名が出場を果たしました。そして、女子走幅跳で菅沼瑠璃選手(田原陸上ク)が優勝、男子走幅跳で田中瑛一選手(同)が2位に入賞しました。

また、10月2日に豊橋で行なわれた愛知県小学生長距離走記録会では、豊橋陸上クAが優勝、蒲郡クAが2位、田原陸上クAが3位と東三河勢が上位を独占しました。優勝した豊橋陸上クは、奇しくも鈴木亜由子選手・伊澤菜々花選手らを擁して4位入賞を果たした第6回大会以来、13年ぶりに全国小学生クロスカントリーリレー研修大会への出場を決めました。この小学生の活躍が、東三河の中高生の心に火をつけ、駅伝シーズンでの活躍につながることを期待しています。そして、トヨタ自動車にはニューイヤー駅伝3連覇を達成してくれることを願っています。



13年ぶりに全国大会出場を決めた豊橋陸上クラブの選手たち
(写真提供: スポーツとよはし)

(兵藤 重二)

関係団体報告

小学生友の会

28年度の小学生友の会は例年行なわれている県小学生リレー競走大会(6月)と県小学生選手権大会(11月)だけでなく、パロマ瑞穂スタジアムで東海小学生リレー競走大会(8月)が行なわれ、さらに日本選手権(6月)と全日本ジュニア・ユース選手権大会(10月)で招待リレーも開催されました。小学生の中でも上位の選手にとっては、緊張感のある大会や招待レースが続いたため、好記録を出す選手・チームも多く、とても充実したトラックシーズンでありました。

“日清食品カップ”第32回全国小学生陸上競技交流大会 選手団名簿と記録

日程:平成28年8月20日(土) 会場:日産スタジアム

カテゴリー	氏名	所属クラブ
総監督	大矢 新吾	なごや陸上クラブ
コーチ	谷寄 好美	小学生友の会
	松井 昭宏	岡崎 JAC
	西村 嘉二	AC一宮
支援コーチ	桑山 修一	TSM
	宮下 剛芳	田原陸上クラブ
	河合 正己	JACあつみ
	川本 浩一	とよた AC

男子

種目	選手名	チーム名	記録
4×100mR	佐藤 元哉	AC一宮	50秒84 3位 (予選記録) 50秒49
	池田 駿大		
	中西 尊琉		14秒21
	石田 大河		
※釜田 峻羽			
5年100m	堀 紘輝	安城 JAC	14秒22
6年100m	浅井 駿輝	なごや陸上クラブ	13秒30
80mH	亀山 聡太	TSM	12秒78
走高跳	川口 遥己	JAC武豊	1m45 5位
走幅跳	田中 瑛一	田原陸上クラブ	5m10 2位
ジャベリックボール投	河合 大地	JACあつみ	52m38 10位

女子

種目	選手名	チーム名	記録
4×100mR	藤井 鈴奈	岡崎 JAC	51秒21 1位 (予選記録) 50秒99 県最高記録
	土居 幸愛		
	藤江 美空		14秒07
	北田野々花		
※城山あずさ			
5年100m	田島 七里香	TSM	14秒30
6年100m	黒田 茜音	とよた AC	13秒79
80mH	中西百萌佳	TSM	12秒59 2位
走高跳	二村菜津乃	TSM	1m25
走幅跳	菅沼 瑠璃	田原陸上クラブ	4m83 1位
ジャベリックボール投	清田 朋花	JACあつみ	43m74 14位

※印は友好レースに出場

8月19日(金)・20日(土)に第32回全国小学生陸上競技交流大会が今年も横浜・日産スタジアムで開催されました。1日目は日産スタジアムでの大会前練習と日清食品ミュージアムの見学が行なわれました。2日目の大会当日は、前夜からの大雨が午前中まで残り、選手たちはホテルから競技場までの移動やアップする場所にも困る状況でありました。そのような状況でも、愛知県選手団の選手やコーチの一人ひとりが活躍し、この大会に全力で挑むことができました。

その成果として、女子走幅跳と女子リレーが1位、男子走幅跳と女子80mHが2位、男子リレーが3位、男子走高跳が5位に入賞しました。中でも圧巻だったのが女子のリレーです。予選を50秒99の大会新記録で走り、準決勝と決勝では会場中の注目を集め、堂々の1位を獲得しました。岡崎JACとしても昨年に続き大会連覇を達成しただけでなく、リオデジャネイロオリンピックで日本の男子4×100mRが歴史的な銀メダルを獲得したまさにその日の優勝でした。会場内でもリオ五輪のリレーの映像が流されましたが、岡崎JACのリレーチームは、五輪以上の感動



【日産スタジアムでの記念撮影】

を私たちに与えてくれました。

また、女子走幅跳で1位になった菅沼選手を始め、フィールド種目に出場した選手たちも大いに活躍しました。11月3日の県小学生選手権でも優秀な成績を収め、中学校での活躍も期待しています。



【一致団結して選手を応援する“チーム愛知”】

(大矢 新吾)

中小体連

○全日本中学校陸上競技選手権大会(8/21～24 長野)

本県より70名が出場しました。3年連続での70名以上の参加は過去最高となります。

男子800mでは本県から2年連続で3名が決勝に進出し、この種目での日本中学記録保持者でもある上郷中の馬場勇一郎選手が優勝(愛知県勢2年連続優勝)を飾りました。男子1500mにおいても本県から3名が決勝に進出し、千種中の服部凱杏選手が大会新記録となる3分54分49(=中学歴代2位)をマークし優勝、そして最優秀選手に輝きました。

ホープさん ㊟

馬場 勇一郎 選手(上郷中3年)

馬場勇一郎選手は小学校からサッカーをやっており、中学校入学後もサッカーのクラブチームと中学校の陸上部を兼ねて活動を行っていました。その中でも、1年生の夏から多くの大会で大会記録を更新し、陸上でも頭角を現していました。ジュニアオリンピック大会では男子C1500mにメダル獲得を目標に出場しましたが、4位という悔しい思いをしました。この悔しい結果を受けて、1年生の冬場から陸上へ専念することを決断しました。

昨年度は、全国大会で1500m7位、ジュニアオリンピック大会で2位。また、都道府県駅伝の補欠としての出場。目標はいずれの大会も個人では優勝、都道府県駅伝では選手になることを目標として掲げていたため、悔しい思いをすることが多かった1年でした。

2年生の冬場はスタミナとスピードの強化に加え、様々な動きづくりやプライオメトリクスにも積極的に取り組み、ケガすることなく順調に体力要素を向上させることができました。いろいろと悩んだ末、今年度の夏は800m、1500mの2種目に専念して全国大会優勝への目標を定めることとなりました。800mでは公認レース4度目の西三河中学総体決勝で1分52秒94、愛知県中学総体予選では1分52秒43という日本中学新記録を立て続けに更新することができました。今年度の全国大会では、日本中学記録保持者としてのプレッシャーがかなりある中でのレースでしたが、「自分のいつものレースをする」ということを自分に言い聞かせ、そのプレッシャーに打ち勝つことができました。800mでは優勝、1500mでは2位になることができました。

彼は自分と向き合い「何が自分に足りないのか」、「何が必要なのか」を常に考え、ひたむきに努力を続けています。自分自身に負けない強い信念をこれからも持ち続け、一步一步成長してほしいと願っています。

(磯部 慶)



日本中学新記録を樹立

また、女子四種競技では鷹来中の木村加乃選手が、この種目では本県初となる7位入賞を果たしました。大会後の専門誌上には恒例の県別対抗順位が掲載されますが、本県の男女総合順位は中学陸上界において不動の王者である兵庫県、近年躍進めざましい大阪府に次いで全国の第3位と、優勝者以外にも多くの選手が高いパフォーマンスを存分に発揮することができたと考えます。

この成果の背景は、選手の努力、日々指導されている先生方の熱意と指導力、選手のご家族の支えによるところが最も大きな要因であることは言うまでもありませんが、それ以外に大きく2つの要因があると思います。

1つ目は、多くの中学指導者、国体強化部の高校の先生方に加え、一昨年より小学校クラブチームの先生方にもご協力いただき、愛知陸協選手強化委員会ジュニア部として「ジュニア強化練習会」を開催して下さっていることが挙げられます。

2つ目は、各地区での陸上クラブチームの活動が、小学生の年代に陸上競技の楽しさを味わわせて下さっていることです。

また、大会期間中は日本中体連東海ブロック長として本部に詰めていましたが、開催県である長野県の先生方から「この部分は愛知全中を参考にしました」「先日の日本選手権の視察を受けてこの形にしました」などの声を多くいただきました。

次年度に向け、新たな選手育成の指針を胸に、中体連としてさらなる飛躍をめざし、尽力していきたいと考えています。

○平成29年の全中大会（熊本）から、以下の2種目において標準記録の引き上げが検討されています。正式には年度末の日本中体連理事会において決定されますので、ご準備ください。

男子400m 51.70 → 51.60
男子800m 2.01.50 → 2.01.00

(丹羽 智行)

高体連

平成28年度トラックシーズンを総括して

今年のトラックシーズンは、一言で言えば優あれど底浅しです。岡山総体には、総勢154名という過去最多の参加者数で臨むことができました。この数は単独地区の北海道を除けば全国1位の数でした。その中で4種目の優勝を成し遂げましたが、総入賞者数は昨年度より減少しました。

4種目の優勝は男女の走高跳でのアベック優勝。岡崎北の藤森君と昨年度も2位に入賞していた岡崎城西の浅井さん。藤森君は久しぶりの公立高校の優勝。浅井さんは昨年度2位の実績の中で、1m81という本年度全国ランキングトップの好記録での優勝でした。男子400mの桜丘の小久保君。県大会からの好調をしっかりと維持し、46秒台での熾烈な戦いを見事制しました。男子800mの愛知の山田君。予選から一度もトップを譲らず、すべて1位での完勝でした。女子のリレー2種目では、惜しくも2位でしたが、4×100mRの中京大中京、4×400mRの至学館ともに、優勝を十分うかがえる中での、大健闘でした。その他上位入賞もあり、委員長としても、総監督としても楽しい5日間でした。

一方で、過去最高の参加者数の中で、全体の入賞者数の減少は今後に不安を残したように思います。地道な強化が実をつけてきています。愛知県は学校数も多く、選手の分散化もありますが、高体連としても愛知県全体としての強化を考えた今後の活動が必要であると感じました。

来年度に向けた明るい兆しは国体少年B走幅跳で名城大附属の中野君の優勝です。岩手の寒い天候の中での優勝は素晴らしいものでした。

もう一つ特筆すべきことは、日本ジュニア選手権男子800mでの中京大中京の伊藤君の優勝です。岡山総体は4位でしたので、国体には出場できませんでした。その中で優勝は、彼の努力の継続があったからだと思います。次のステップでの活躍に大いに期待します。

愛知県高校駅伝も皆様方のご協力のもと、男子は参加89校の頂点に豊川高校が立ちました。女子も豊川高校が優勝しアベックで都大路の全国大会への切符を手に入れました。参加校数は62校でした。当日は気温が上がり難しいコンディションでしたが、持てる力を十分に発揮し、晴れの代表校を勝ち取りました。本年度は記念大会ではないため、地区代表枠がありません。この2校のみが愛知県代表です。両校とも愛知県「22」のナンバーカードで全国優勝を日ざし、活躍されることを大いに期待します。

運営については、本年度も万全の準備を済ませ、大会運営に臨みました。競技役員欠席や辞退による、やり繰りが大変ではありましたが、なんとか無事に終了することができました。知多市、知多警察署、知多市教育委員会、知多三四会をはじめ、多くの皆様のご協力に心から感謝いたします。

来年度の全国総体は山形県で行なわれます。本年度の過去最高の参加者数の維持と多数の入賞を目標に、陸協強化委員会とも協力をしながら努力をしていきたいと思ひます。

大会結果等は競技会結果報告をご参照ください。

(石井 哲郎)

高体連定通部

2年連続 男女総合優勝!

全国定通大会で愛知県選手団大活躍!!

第51回全国高等学校定時制通信制陸上競技大会が東京・駒沢オリンピック公園陸上競技場で開催され、愛知県は2年連続21回目となる男女総合優勝、女子は3年連続総合優勝を飾るなど大活躍となりました。ご支援いただいた陸協関係者の皆様がこの場をお借りして御礼申し上げます。

昨年は最終競技まで総合優勝を兵庫県などと争う展開となりましたが、今年は大差を付けての優勝となりました。松岡椋太選手(男子400m)、濱崎優祐選手(男子走高跳)、松屋空選手(女子400m)の科技高刈谷勢が優勝を果たし、安定した力を見せつけました。松岡選手と松屋選手は男女のキャプテンとして競技だけでなく、これまでの経験を生かしてチームを引っ張ってくれたと思います。松屋選手は三連覇を果たし、女子4×100mRとの2冠を獲得。有終の美を飾りました。

3、4年生の活躍が目立つ中、1、2年生も素晴らしい活躍を見せました。女子800m、3000mの2種目を制した1年生の小林利江選手(愛知黎明)は女子最優秀選手に選ばれました。力の差を見せ、後続をぐんぐん引き離した走り

に今後の活躍を期待せずにはられません。男子400mHの杉山尚規選手(豊橋・昼)は脚の故障もあり、万全の状態ではありませんでしたが優勝を果たしました。今後も愛知県の軸となる選手です。さらなる成長を期待したいところです。

各リレー種目のタイムはこれまでの愛知県最高記録を更新するものでした。現地に入ってから調整ではパトパスに不安もありましたが、担当コーチの細やかな指導と選手の頑張り、そしてスタンドからの声援が後押しをしました。男子4×400mRと女子4×100mRが優勝、男子4×100mRが2位となり、愛知の好結果の一つであるチームワークの良さが遺憾なく発揮されたものと思います。

紹介した選手以外にも多くの選手がいます。入賞あるいは自己ベストを出して喜ぶ選手、その一方で人目もはばからず悔し涙を流している選手、さまざまな様子が見られました。「経験こそ財産」とはよく聞く言葉ではありますが、定通の選手には一番大切なことかと思えます。今後の人生に生かしてほしいと願っています。

科技高刈谷を中心とした3年生や4年生が大きな力を発揮したことで、この2年は総合優勝を成し遂げましたが、来年の全国大会は接戦となりそうです。これからもこの喜びや達成感を感じたいなら、現状に満足することなく努力するしかありません。学校として、選手一人一人として限られた環境での練習かもしれませんが、可能な限り継続して練習することと「やる時はしっかりやる」という気持ちで取り組まないと同じ思いはできないと思います。来年は本当の愛知の強さが問われる大会になりそうです。素晴らしい経験を生かし、来年に向けて今からスタートしましょう！



来年も駒沢で歓喜の時を迎えよう！

(野口 武則)

学連

2016年トラックシーズンを終えて

オリンピックイヤーとなった今年の日本陸上競技界は、男子4×100mRの銀メダル獲得に沸いた。学生陸上界にとっては、入賞した4種目中、リレーを含む2種目において現役大学生が関わっていたのは、東京大会に向けた好材料となったであろう。

世間を沸かせたオリンピックも出場した日本インカレは、日本一暑い熊谷で学生日本一を懸けた熱い戦いが、9月2～4日で開催された。春先から好調ぶりを維持していた女子100mHの小林紗矢香選手(愛教大)が13秒50の東海学生記録を更新し初優勝を飾った。学生女子競歩界では敵無しの五藤怜奈選手(中部学院大)は、10,000m競歩

で3連覇達成。男子では、今季、100mの東海学生記録を更新し、日本選手権7位入賞を果たしていた高橋周治選手(愛知医大)は欠場したが、フィールド種目での活躍が目立った。棒高跳では、個人選手権の覇者、鈴木康太選手(中京大)が5m45の自己新記録で優勝。同6位には高田凌選手(中京大)が入賞。近年、この種目においては、山本聖途選手(トヨタ自動車、2013年卒)の母校でもある中京大学が台頭しており、その技術やトレーニング方法などは手本とすべきであろう。ハンマー投では、植松直紀選手・墨訓熙選手(中京大)が2、3位、篠田大貴選手(岐阜経済大)が8位に入り、東海勢が多数入賞を果たした。一方トラック種目では、男子両リレーの決勝進出チームが全て関東の大学で独占されており、今後、大学単位ではなく、学連としての強化活動も検討する余地はある。

東海学連主催のトラック&フィールドの最終戦となった東海学生秋季選手権(長良川、10/9・10)は、国民体育大会と開催日が重なった為、上位選手の欠場はやむを得なかったが、前出の鈴木選手が自己記録を5m51に伸ばし大会新で優勝。そして、神谷もも選手(愛教大)が女子1,500mと5,000mで2冠、男子砲丸投で杉本仁選手(中京大)が2015年学生ランキング25位相当の記録で優勝し、若い力も目立った大会となった。

10月10日に開催された出雲駅伝を皮切りに、全日本大学女子駅伝、全日本大学駅伝とロードレースのシーズンを迎える。トラックで養ったスピードを生かし、2017年ユニバーシアード台北大会代表選考につながるような走りを期待する。

(黒須 雅弘)

実業団

トラックシーズンを終えて

2016年のオリンピックイヤーの実業団選手では、棒高跳の山本聖途選手(トヨタ自動車)が出場したが、残念ながら記録なしに終わった。5m77の持ち記録があり、入賞も期待されたが次の大舞台での自己記録・さらには日本記録の更新を期待したい。

フィールドでは、円盤投の湯上剛輝選手(トヨタ自動車)の活躍が光った。社会人1年目の今年は、自己記録を約4m更新する57m55を記録し、日本記録も視野に入ってきた。大会では、日本選手権・国体で3位、実業団でも2位と常に表彰台に上がった。

トラックでは、全日本実業団の5000mで、男女とも愛知の実業団の外国勢が制した。男子ではマチャリアディラン選手(愛知製鋼)が13分23秒43、女子のアン・カリンジ選手(豊田自動織機)が15分17秒43で制し、1500mと合わせ2冠を獲得した。

次はいよいよ駅伝シーズンに入ります。トヨタ自動車は、ニューイヤーで3連覇を目指し、豊田自動織機は8年ぶりの王座奪回を目指します。

(中村 博之)



中村明彦選手リオへ出発



湯上選手

マスターズ陸上

心豊かな長寿社会への貢献役

愛知マスターズの記録会は皆様のご協力のお陰で多くの参加をいただけるようになりました。近年はその数が増え過ぎ時間内で消化し切れなくなり、後の利用者にご迷惑をかけ、施設管理者から改善するよう要請を受けていました。そのため今年から各種目のレース数を制限し、その範囲内でレースを実施することになりました。従って小学生の参加を長距離種目のみとさせていただきます。7月2日(土)の第62回、8月13日(土)の第63回はほぼ時間内で終えることができました。小学生の参加が少なくなることは残念ではありますが、しばらくはこの方法で実施していくことになるのではないかと思います。

第36回全日本マスターズ選手権が9月17日(土)から19日(月・祝)の3日間新潟市のデンカビッグスワンスタジアムで開催されました。全国から2,081人が参加し、愛知からは139人が参加しました。これは地元新潟を除けば神奈川142人、東京141人に次ぐもので、地理的条件からすれば実質全国ナンバーワンと言えるのではないかと思います。特に、女子は26人が参加し地元新潟以外では全国トップでした。

競技面での活躍も素晴らしく男子ではM45小高孝二選手(豊田市)が60m、200m、4×100mR、4×400mR、M55畠中一起選手(豊川市)が60m、100m、200m、4×100mRの4冠を獲得しました。この年代は大変な激戦区で1冠を獲得するのも難しい中、4冠は高く評価されるどころです。女子ではW50金子葉子選手(名古屋市)が200m、400m、4×100mR、4×400mR、W55碓井由紀子選手(豊川市)が200m、400m、4×100mR、4×400mR、同じくW55中山淳子選手(名古屋市)が800m、1500m、3000m、4×400mRでそれぞれ4冠を達成しました。この3人は負け知らずの常勝チャンピオンです。

トラック競技が輝き過ぎでフィールド競技が霞んで見えますが、M65中村勉選手(あま市)が砲丸投、ハンマー投、W90長谷川政子選手(名古屋市)が砲丸投、円盤投の2冠に輝いています。このようにトラック競技、フィールド競技において男女とも万遍なく相変わらずの強さを誇示しています。今後も更なる躍進を図りたいと考えています。

10月8日(土)岩手県北上陸上競技場で行なわれた第71回国体会場において、日本陸上競技連盟の2015年度の表彰式が行なわれ、日本陸上競技連盟の推薦により佐野昭二に秩父宮章が授与されました。1996年度から愛知マスターズ連盟理事、2003年度から愛知マスターズ連盟理事長、2006年度から東海マスターズ連盟理事長を兼務し、2006年度から日本マスターズ連合の理事、2008年度から2015年度まで日本マスターズ連合の常務理事・総務委員長を務めています。この間のマスターズ陸上での活動が、評価されたものであります。(佐野 昭二)

OB・OG会

秋のOB・OG会行事は、11月14日長野県下伊那郡松川町の松尾農園でリンゴ狩りを行ないました。名古屋駅を貸し切りバスで出発、昼神温泉ユルイの宿・恵山で休憩と昼食の後、目的地のリンゴ園に到着。早々に収穫用のはさ

みとかごを持ちリンゴ狩りを楽しみました。背後には晩秋の装いの山々の中、園内で丸かじりのリンゴは甘酸っぱさが絶妙で堪能しました。参加した26名の皆さんもご家族へのお土産も沢山あったようです。今回のリンゴ園は、競技会で選手が使用しているナンバーカード発注会社「シナノ大器」社長様のご紹介でした。感謝を申し上げる次第です。

年明けには西三河地区担当の宿泊懇親会を計画しています。多くのご参加を期待いたします。



下伊那のリンゴ園にて

(水野 久)

競技会報告

第76回愛知陸上競技選手権大会
兼第59回東海陸上競技選手権大会予選会
兼第71回国民体育大会選手選考競技会
2016年7月16日(土)・17日(日) パロマ瑞穂スタジアム

男子 (PHR：県高校新 GR：大会新)

種目	1位	2位	3位
100m	黒木 省悟 10.57 中京大	渡会 元貴 10.59 同志社大	中澤 悠哉 10.66 豊川高
200m	児島 大樹 21.42 中京大	堀場 廉 21.57 名古屋高	遠藤 侑汰 21.63 中京大
400m	中川 滋貴 47.99 駿河台大	古田 真也 48.48 大府高	富田 恭兵 48.68 青山学院大
800m	廣出 和樹 1:53.15 早稲田大	伊藤 壮太 1:54.56 中京大中京高	宇野 佑亮 1:54.58 岡崎城西高
1500m	大川 隼平 4:03.53 国士舘大	伊藤理久也 4:05.38 愛知黎明高	沖田 龍誠 4:05.72 岡崎城西高
110mH (1.067m)	三浦 成皓 14.12 関西学院大	八代 貢輝 14.17PHR名古屋高	角田 涼一 14.31 中京大
400mH (0.914m)	真野悠太郎 50.52 名古屋大	角田 涼一 50.88 中京大	小田 将矢 51.73 名古屋大
3000mSC (0.914m)	川瀬 勝寛 9:20.19 東海学園大	加藤 聡 9:21.04 トヨタ自動車	澤 洸太 9:22.77 豊田高専高
5000mW	山田 康太 20:02.76GR 順天堂大	及川 文隆 20:06.41GR 東洋大	齊藤 凱 20:43.31 平成国際大
走高跳	水谷 来 2.14 中京大	大井 拓也 2.11 愛知教育大	2.05 堀川 竜正 豊田自動織機 槽谷 隆明 愛知教育大
棒高跳	小木曾 光 5.10 中京大	榎 将太 5.00 中京大	石川 拓磨 4.80 中京大
走幅跳	東 孝一 7.60 小島プレス	南 晋太郎 7.44 中京大クラブ	二宮 聡史 7.42 都留文科大

三段跳	木村 友紀 15.25 愛知陸協	伊藤 裕也 15.13 名古屋大	遠山 雄耶 15.02 岐阜経済大
砲丸投 (7.260kg)	白藤 聖陽 14.91 安城学園高	江崎 亮人 14.61 日本大	中井 康二 13.16 中京大中京高
円盤投 (2.000kg)	湯上 剛輝 53.85GR トヨタ自動車	久保 博規 47.62 中京大クラブ	越 寛将 45.50 中京大クラブ
ハンマー投 (7.260kg)	久保 浩司 65.34 中京大クラブ	北浦 弘之 53.66 中京大クラブ	石田 考正 51.28 愛陸 DC
やり投 (0.800kg)	八木 一憲 69.79 みかん山	藤垣 諒 66.02 至学館大	下り藤修大 64.72 小島プレス

最優秀選手 湯上 剛輝 (トヨタ自動車)

女子 (GR:大会新 PHR:県高校新)

種目	1位	2位	3位
100m	杉山 美貴 11.75 中京大	丹羽愛利彩 11.88 中京大	柴山沙也香 12.00 大阪成蹊大
200m	檜山 楓 24.40 至学館大	丹羽愛利彩 24.40 中京大	吉田 紗弓 24.74 立命館大
400m	檜山 楓 54.56GR 至学館大	吉田 紗弓 55.57 立命館大	時久 彩音 56.58 至学館高
800m	竹内麻里子 2.10.09 小島プレス	時久 彩音 2.10.17 至学館高	細井 衿菜 2.11.33 中京大中京高
1500m	川口 桃佳 4.25.21 岡崎学園高	市原 和佳 4.25.25 千種高	津野 優 4.28.31 光ヶ丘女子高
100mH (0.840m)	古橋 佳奈 13.86 安城学園高	藤原 涼花 13.93 至学館大	江頭 亜美 14.25 安城学園高
400mH (0.762m)	北野 有紀 1.00.30 愛知教育大	大谷友梨恵 1.00.33 加藤建設	長屋 美月 1.01.80 中京大中京高
3000mSC (0.762m)	後藤 梨奈 10.47.80GR 岡崎城西高	榊原 海紗 11.00.20 中京大	竹嶋 央后 11.13.88 中京大
5000mW	岩田 奈央 23.53.45 千種高	駒澤 杏美 25.48.96 惟信高	井上 香穂 26.39.66 愛知学院大
走高跳	浅井さくら 1.74 岡崎城西高	榊原至佳子 1.71 瑞陵高	小笠原早矢楓 1.68 安城学園高
棒高跳	今泉 友里 3.50 中京大	高田 彩佳 3.40 岡崎城西高	塩崎 泉 3.30 至学館高
走幅跳	石原 薫子 5.88 中京大	澤井 萌奈 5.79 中京大中京高	宮川 杏奈 5.75 三好高
三段跳	糟谷 友里 12.29PHR 名古屋商高	中山 怜佳 12.20 至学館大	浅井さくら 11.95 岡崎城西高
砲丸投 (4.000kg)	丹嶋あやめ 12.39 名城大附高	山浦あみか 12.28 安城学園高	近藤 沙南 12.12 安城学園高
円盤投 (1.000kg)	徳岡 沙織 44.14起ドリムA+C	丸山 夏美 42.13 至学館大	川口 紅音 40.95 津島高
ハンマー投 (4.000kg)	大久保祥子 52.49 中京大	田口 優 51.36 中京大	能登 美幸 48.46 東京女子体育大
やり投 (0.600kg)	館林 都美 47.81 至学館大	石本 瞳 47.18 名古屋大谷高	榊原 梨子 44.91 名古屋大谷高

最優秀選手 檜山 楓 (至学館大)

第62回全日本中学校通信陸上競技愛知県大会
兼第43回全日本中学校陸上競技選手権大会愛知県予選会
兼第71回国民体育大会選手選考競技会 (少年B・共通)
 2016年7月21日(木)・22日(金) パロマ瑞穂スタジアム

男子 (GR:大会新 =GR:大会タイ PJH:県中新 ◎:標準記録突破)

種目	1位	2位	3位
1年100m	山下 侑牙 11.87 竜海	判家 悠也 12.24 豊川東部	濱田 晃成 12.39 名古屋北
2年100m	筒井 健人 11.51 福岡	深瀬 京佑 11.57 岡崎東海	澤 孝輔 11.59 松平

3年100m	岩堀 剛己 11.19 ◎ 新香山	遠藤 耕介 11.34 碧南新川	大崎 雅人 11.35 旭東
200m	神谷 翔矢 23.03 長良	羽根田啓吾 23.25 六ツ美北	坂東 泰基 23.42 弥富
400m	高畑 永遠 51.71 矢作北	菅野 圭柊 52.41 二川	山本 聖徳 52.74 大府
800m	服部 凱杏 1.55.21GR ◎ 千種	柳本 匡哉 1.58.68 ◎ 豊橋南稜	永井 翔真 1.58.84 ◎ 矢作北
1年1500m	小倉 謙心 4.28.34 豊橋南陽	高橋 遼将 4.28.46 柏原	榊原 海斗 4.32.19 安城北
1500m	馬場勇一郎 3.57.40GR PJH ◎ 上郷	服部 凱杏 3.58.20GR ◎ 千種	柳本 匡哉 4.04.02 ◎ 豊橋南稜
3000m	馬場勇一郎 8.40.98GR ◎ 上郷	吉居 大和 8.53.83 ◎ 田原東部	志村 健太 8.58.76 千種
110mH (0.914m)	岩堀 剛己 14.82 ◎ 新香山	土屋 翔栄 14.84 ◎ 六ツ美	辻 日向 15.23 竜海
4×100mR	豊橋南陽中 43.93GR 金澤奨一朗 藤井 裕也 丸山 直人 小倉 一心	長良中 44.10GR 林 貴翔 戸谷 壮宏 加藤 久騎 神谷 翔矢	大高中 44.23 榊原 愛透 板垣 慶大 各務 颯人 江坂 真凜
走高跳	佐藤 拓仁 1.85 ◎ 大府北	佐野 龍聖 1.82 鶴城	市川 拓海 1.79 福岡
棒高跳	大崎 寛 4.00 ◎ 大治	藏地 唯斗 3.80 豊川南部	森 拓真 3.80 宮田
走幅跳	神谷 翔矢 6.70 長良	大岩 聖汰 6.52 滝	杉浦 天斗 6.24 高橋
砲丸投 (5.000kg)	渡邊 朗生 12.74 守山西	渡辺 太陽 12.42 味美	山本 雷大 12.25 大高
四種競技	太田 昌吾 2655GR ◎ 西尾一色	石田 拓真 2646=GR ◎ 守山西	伊藤 蒼真 2268 春日井西部

女子 (GR:大会新 =PJH:県中タイ ◎:標準記録突破)

種目	1位	2位	3位
1年100m	土居 心愛 12.80 竜海	岩月 遥 12.90 本郷	倉橋 美穂 13.13 上郷
2年100m	谷口 琴音 12.85 甲山	新庄 理子 12.85 豊橋東部	竹川 綾乃 13.04 青陵
3年100m	高須 鮎香 12.08GR ◎ 城北	永井絵理香 12.35 ◎ 甲山	外園 愛梨 12.35 ◎ 扇台
200m	永井絵理香 25.92 甲山	大城 珠莉 25.95 弥富	村木 未澪 26.13 逢妻
800m	兼原 遥花 2.18.18 甲山	松原 亜純 2.18.80 清須新川	吉田 彩乃 2.20.25 諸輪
1500m	藤原あい佳 4.39.52 古知野	浅野 智尋 4.39.74 岩津	堀 綾花 4.40.45 祖父江
100mH (0.762m)	佐竹 里野 14.91 旭東	伊藤 凜乃 14.99 味美	西川 知沙 15.00 二川
4×100mR	甲山中 49.36 鳥居 芽生 永井絵理香 田中 海来 谷口 琴音	扇台中 49.73 前田明日香 外園 愛梨 高山 朋愛 深谷 実生	名塚中 50.09 丹羽 優菜 鹿島菜々子 末松 里菜 浅野友理香
走高跳	横山こころ 1.66 ◎ 高師台	美齊津奈々 1.54 城北	稲垣 葵衣 1.51 平坂
棒高跳 (オープン)	浦津なの 3.00=PJH 東浦北部	渡邊 南月 2.90 岩津	中垣 音衣 2.50 鶴城
走幅跳	高須 鮎香 5.59 ◎ 城北	伊串 彩夢 5.54 ◎ 守山西	服部 夏海 5.26 長良
砲丸投 (2.721kg)	清水菜々子 13.41 ◎ 長良	平岩 志萌 13.17 ◎ 守山	木下 七海 13.07 ◎ 高蔵寺
四種競技	木村 加乃 2773GR ◎ 鷹来	安藤 愛未 2422 藤森	木野瀬 萌 2265 葵

第70回愛知県中学校総合体育大会陸上競技大会
2016年7月27日(水)・28日(木) パロマ瑞穂スタジアム

男子 (GR:大会新 PJH:県中新 ◎:標準記録突破)

種目	1位	2位	3位
1年100m	山下 侑牙 12.02 竜海	奥村 雄也 12.35 大府西	判家 悠也 12.40 豊川東部
2年100m	筒井 健人 11.54 福岡	深瀬 京佑 11.62 岡崎東海	澤 孝輔 11.63 松平
3年100m	小倉 一心 11.31 豊橋南陽	大崎 雅人 11.34 尾張旭東	藤井 裕也 11.38 豊橋南陽
200m	角廣 陸 23.22 翔南	武藤 豪志 23.31 犬山東部	富田 大智 23.41 安城南
400m	高畑 永遠 50.58GR ◎ 矢作北	石田 拓真 50.99 ◎ 守山東	鮫島 雄大 52.49 岩成台
800m	馬場勇一郎 1.56.25 ◎ 上郷	柳本 匡哉 1.58.14 ◎ 豊橋南陵	大岩 歩夢 1.59.30 ◎ 東港
1年1500m	吉居 駿恭 4.16.03GR 田原東部	小倉 謙心 4.30.76 豊橋南陽	高橋 遼将 4.32.98 柏原
2年1500m	柏木 那央 4.11.37 一宮中部	中野 倫希 4.11.58 山田	安藤 圭佑 4.11.96 豊川東部
3年1500m	服部 凱杏 3.56.52PJH GR ◎ 千種	前田 陸 4.11.06 逢妻	谷口 賢 4.12.99 青陵
3000m	吉居 大和 9.00.52 田原東部	浅井 大登 9.07.69 祖父江	近藤 総司 9.08.61 岡崎東海
110mH (0.914m)	岩堀 剛己 14.65 ◎ 新香山	土屋 翔栄 15.10 六ツ美	辻 日向 15.11 竜海
低学年 4×100mR	扇台 47.06 鈴木 大河 西垣 拓音 稲垣 良行 吉田壮一郎	石巻 47.57 山本 和毅 大木 一真 堀田 晴 上野 瑛史	大府西 47.79 青木 宏太 奥村 雄也 池田 翔哉 原田 朱惟
4×100mR	長良 43.72GR 林 貴翔 戸谷 壮宏 加藤 久騎 神谷 翔矢	豊橋南陽 43.79GR 金澤奨一朗 藤井 裕也 丸山 直人 小倉 一心	藤森 44.06 高木 健人 佐藤 優樹 荒木夏生 戸丸 優矢
走高跳	佐野 龍聖 1.85 ◎ 鶴城	佐藤 拓仁 1.85 ◎ 大府北	田中 日向 1.85 ◎ 古知野
棒高跳	杉浦 陽悠 4.20 ◎ 鶴城	田中 優亮 4.10 ◎ 御幸山	藏地 唯斗 4.10 ◎ 豊川南部
走幅跳	神谷 翔矢 6.71 ◎ 長良	濱崎 諒也 6.48 豊岡	大岩 聖汰 6.48 滝
砲丸投 (5.000kg)	渡邊 朗生 12.79 守山西	渡辺 太陽 12.76 味美	曾根 優太 11.92 高蔵寺
四種競技 (オープン)	太田 昌吾 2534 ◎ 西尾一色	伊藤 蒼真 2359 春日井西部	小島 脩 2160 知多

女子 (GR:大会新 PJH:県中新 ◎:標準記録突破)

種目	1位	2位	3位
1年100m	土居 心愛 13.05 竜海	岩月 遥 13.08 本郷	倉橋 美穂 13.41 上郷
2年100m	谷口 琴音 12.82 甲山	新庄 理子 12.88 豊橋東部	竹川 綾乃 12.96 青陵
3年100m	高須 鮎香 12.31 ◎ 城北	永井絵理香 12.70 甲山	齋 安梨 12.75 富士
200m	村木 未澁 25.89 ◎ 逢妻	西 真奈伽 26.32 大府北	藤浪 沙耶 26.33 長良
1年800m	阪井 空 2.21.51 水無瀬	萩原 さら 2.23.97 田原東部	萩原 さや 田原東部 小澤 紗央 豊川東部
800m	兼原 遥花 2.17.35 甲山	川島 実桜 2.17.63 高師台	早川想世加 2.18.61 大高

1500m	藤原あい佳 4.39.06 古知野	堀 綾花 4.39.07 祖父江	水谷 怜愛 4.40.67 横須賀
100mH (0.762m/8m)	木村 加乃 14.62 ◎ 鷹来	西川 知沙 14.78 ◎ 二川	鏡味 咲耶 14.84 知多東部
低学年 4×100mR	上郷 51.55 柴田 葉里 沖 美月 倉橋 美穂 黒野 唯奈	竜海 52.00 城所 莉奈 手島 美咲 土居 心愛 高野 景子	御幸山 52.06 伊東 七穂 須崎 心優 小島 那月 竹居明佳里
4×100mR	甲山 48.65PJH GR 鳥居 芽生 永井絵理香 田中 海来 谷口 琴音	大高 49.38 山田 桃子 花田 春奈 阪野かすみ 山口さくら	長良 49.49 大鹿 みゆ 藤浪 沙耶 服部 夏海 吉江 采花
走高跳	横山こころ 1.63 ◎ 高師台	神谷 京奈 1.60 ◎ 依佐美	小寺 波音 1.60 ◎ 六ツ美
走幅跳	伊串 彩夢 5.48 ◎ 守山西	山下 李瑚 5.33 田原	服部 夏海 5.28 長良
砲丸投 (2.721kg)	清水菜々子 13.78 ◎ 長良	平岩 志萌 13.01 ◎ 守山	木下 七海 12.96 ◎ 高蔵寺
四種競技 (オープン)	齋藤みゆに 2577 北陵	木野瀬 萌 2226 葵	酒井 響子 2207 岡崎東海

学校対抗総合順位

	1位	2位	3位
男子	豊橋南陽	田原東部	鶴城
女子	甲山	長良	大高

平成28年度全国高等学校総合体育大会
秩父宮賜杯第69回全国高等学校陸上競技対校選手権大会
2016年7月29日(金)～8月2日(火) 岡山県陸上競技場

男子

種目	順位	記録	選手名	学校名
100m	8	10.93	中澤 悠哉	豊川
400m	1	46.67	小久保友裕	桜丘
800m	1	1.50.55	山田 翔雅	愛知
	4	1.51.28	伊藤 壮太	中京大中京
走高跳	1	2.10	藤森 俊秀	岡崎北
砲丸投	2	16.58	白藤 聖陽	安城学園
八種競技	7	5440	柴田 一瞬	豊川

フィールド得点: 6位 岡崎北 8点

都道府県対抗: 5位 39点

女子

種目	順位	記録	選手名	学校名
100m	5	12.18	東 直美	豊橋南
800m	7	2.07.23	時久 彩音	至学館
100mH	5	13.88	古橋 佳奈	安城学園
4×100mR	2	45.78	白田菜々美	中京大中京
			久野 なつ	
			澤井 萌奈	
4×400mR	2	3.42.81	長谷川愛樹	至学館
			磯部 まみ	
			時久 彩音	
			釜田 留奈	
			柴山亜沙美	

走高跳	1	1.81	浅井さくら	岡崎城西
走幅跳	5	5.91	澤井 萌奈	中京大中京
円盤投	5	41.51	川口 紅音	津島
やり投	4	49.15	石本 瞳	名古屋大谷
	8	47.40	榊原 梨子	名古屋大谷

フィールド得点：3位 岡崎城西 8点
都道府県対抗：3位 46点

第38回東海中学校総合体育大会陸上競技大会
2016年8月9日(火) パロマ瑞穂スタジアム

男子 (GR：大会新)

種目	順位	記録	選手名	学校名
1年100m	1	11.82	山下 侑牙	竜海
3年100m	2	11.09	小倉 一心	豊橋南陽
400m	2	52.03	高畑 永遠	矢作北
	3	52.21	石田 拓真	守山東
800m	1	1:55.64GR	馬場勇一郎	上郷
	2	2:00.06	柳本 匡哉	豊橋南稜
	3	2:00.41	永井 翔真	矢作北
1年1500m	1	4:27.43	吉居 駿恭	田原東部
	3	4:35.74	高橋 遼将	柏原
2年1500m	1	4:16.42	柏木 那央	一宮中部
3年1500m	1	4:07.18	服部 凱杏	千種
	3	4:15.64	谷口 賢	青陵
110mH	2	14.37	岩堀 剛己	新香山
	3	14.70	土屋 翔栄	六ツ美
4×100mR	1	44.18	林 貴翔	長良
			戸谷 壮宏	
			加藤 久騎	
			神谷 翔矢	
低学年 4×100mR	1	47.30	鈴木 大河	扇台
			西垣 拓音	
			稲垣 良行	
			吉田壮一郎	
走高跳	1	1.88	佐藤 拓仁	大府北
	2	1.85	田中 日向	古知野
棒高跳	3	4.20	杉浦 陽悠	鶴城
走幅跳	3	6.53	神谷 翔矢	長良

女子

種目	順位	記録	選手名	学校名
1年100m	1	12.76	土居 心愛	竜海
	2	12.89	岩月 遥	本郷
3年100m	2	12.20	高須 鮎香	城北
	3	12.53	永井絵理香	甲山
200m	3	26.14	村木 未澪	逢妻
800m	1	2:18.84	兼原 遥花	甲山
1500m	3	4:44.78	堀 綾花	祖父江
100mH	3	14.57	伊藤 凜乃	味美
4×100mR	1	49.59	烏居 芽生	甲山
			永井絵理香	
			田中 海来	
			谷口 琴音	

4×100mR	2	50.15	金井 智穂	長良
			藤浪 沙耶	
			服部 夏海	
			大鹿 みゆ	
低学年 4×100mR	1	51.44	柴田 栞里	上郷
			沖 美月	
			倉橋 美穂	
			黒野 唯奈	
低学年 4×100mR	3	52.24	高木 菜摘	矢作
			澤田 幸奈	
			齋藤 未来	
			岡田 凜	
走高跳	2	1.55	横山こころ	高師台

第51回全国高等学校定時制通信制陸上競技大会
2016年8月12日(金)～14日(日) 駒沢オリンピック公園陸上競技場

男子

種目	順位	氏名	学校名	記録
100m	7	大木 皓資	科技刈谷	11.79
400m	1	松岡 椋太	科技刈谷	51.01
	4	齊藤 竜馬	豊橋・昼	53.71
800m	8	川口 蓮斗	古知野	2:17.13
400mH	1	杉山 尚槻	豊橋・昼	59.53
	6	山下 涼太	科技刈谷	1:05.53
4×100mR	2	杉下、川口、稲垣、大木(選抜)		44.26
4×400mR	1	川口、齊藤、杉山、松岡(選抜)		3:31.52
走高跳	1	濱崎 優祐	科技刈谷	1.95
	5	清水 拓海	豊橋・昼	1.75
走幅跳	2	杉下 慶	科技刈谷	6.41

女子

種目	順位	氏名	学校名	記録
100m	7	齋藤 美佳	科技刈谷	14.11
200m	3	齋藤 美佳	科技刈谷	28.82
	6	松屋 空	科技刈谷	29.35
	7	山田 結月	古知野	29.67
400m	1	松屋 空	科技刈谷	1:06.42
	4	濱野 那佳	科技刈谷	1:08.63
800m	1	小林 利江	愛知黎明	2:31.13
	7	高須 優芽	科技刈谷	2:45.59
	8	濱野 那佳	科技刈谷	2:50.75
3000m	1	小林 利江	愛知黎明	10:42.48
100mH	3	春田玲穂奈	一宮	18.60
4×100mR	1	ハイムンド、齋藤、松屋、春田(選抜)		54.09
走高跳	4	田中里恵瑠	一色	1.40
	7	光岡 奈穂	豊橋・昼	1.25
砲丸投	3	中島 実里	津島	8.30
	4	永津珠絵史	明和	8.14
円盤投	8	中島 実里	津島	22.14

男女総合：優勝 146点 (2年連続21回目の優勝)

男子総合：2位 64.5点

男子トラックの部：優勝 45点

男子フィールドの部：4位 19.5点
 女子総合：優勝 81.5点（3年連続17回目の優勝）
 女子トラックの部：優勝 63点
 女子フィールドの部：2位 18.5点
 女子最優秀選手：小林利江（愛知黎明）

第43回全日本中学校陸上競技選手権大会

2016年8月21日（日）～24日（水）札幌市厚別公園陸上競技場

男子 (GR：大会新)

種目	順位	記録	選手名	学校名
800m	1	1.54.57	馬場勇一郎	上郷
	3	1.54.97	服部 凱杏	千種
	4	1.56.65	柳本 匡哉	豊橋南稜
1500m	1	3.54.49GR	服部 凱杏	千種
	2	3.57.91GR	馬場勇一郎	上郷
4×100mR	8	43.54	林 貴翔	長良
			戸谷 壮宏	
			加藤 久騎	
			神谷 翔矢	

女子

種目	順位	記録	選手名	学校名
100m	4	12.16	高須 鮎香	城北
4×100mR	2	48.32	鳥居 芽生	甲山
			永井絵理香	
			田中 海来	
			谷口 琴音	
四種競技	7	2800	木村 加乃	鷹来

第59回東海陸上競技選手権大会

2016年8月27日（土）・28日（日）パロマ瑞穂スタジアム

男子 (GR：大会新)

種目	順位	氏名	所属	記録
100m	3	渡会 元貴	同志社大	10.63
400m	2	中川 滋貴	駿河台大	47.65
800m	2	伊藤 壮太	中京大中京高	1.57.60
1500m	2	水谷 友哉	愛工大名電高	4.03.59
	3	中西 玄気	愛三工業	4.03.72
5000m	2	井村 光孝	館俱樂部	14.57.60
	3	伊藤 太貴	岡崎北高	15.07.08
10000m	1	植田 陽平	名経大高蔵高	32.16.39
110mH	3	八代 貢輝	名古屋高	14.25
400mH	1	神谷 健	愛知学院大	51.72
3000mSC	2	澤 洸太	豊田高専高	9.17.38
5000mW	3	杉本 明洋	merclair	21.33.84
4×100mR	2	伊藤 優	至学館大	40.85
		井上 脩吾		
		宇野 佑輝		
		黒田 玲央		
	3	若杉 俊佑	中京大	41.38
		天野 広大		
		遠藤 侑汰		
		井面 拓也		

4×100mR	2	櫻本 貴己	愛知学院大	3.13.42
		三浦 亘暉		
		深谷 隼斗		
	3	神谷 健	名古屋大	3.13.51
嶋田健太郎				
小田 将矢				
真野悠太郎				
走高跳	1	水谷 来	中京大	2.19
	3	道脇 大斗	OBU エニスポ	2.10
棒高跳	2	小木曾 光	中京大	5.00
走幅跳	3	坂本 翔太	至学館大	7.43
	1	江崎 亮人	日本大	14.62
砲丸投	2	白藤 聖陽	安城学園高	14.54
	1	湯上 剛輝	トヨタ自動車	57.55GR
円盤投	1	湯上 剛輝	トヨタ自動車	57.55GR
	2	久保 浩司	中京大クラブ	63.10
ハンマー投	3	古旗 崇裕	中京大	59.82
	2	八木 一憲	みかん山	69.78
やり投	2	八木 一憲	みかん山	69.78

女子

(GR：大会新)

種目	順位	氏名	所属	記録
200m	2	檜山 楓	至学館大	24.29
	3	白田菜々美	中京大中京高	24.65
400m	1	時久 彩音	至学館高	56.55
800m	1	時久 彩音	至学館高	2.09.99
	2	向井 智香	名城大	2.10.34
	3	竹内麻里子	小島プレス	2.10.63
1500m	1	向井 智香	名城大	4.25.51
	2	近藤 望未	中京大中京高	4.33.55
	3	宇野 佑紀	安城学園高	4.35.54
5000m	1	鈴木 純菜	光ヶ丘女子高	16.32.58
	3	稲吉 椿	光ヶ丘女子高	17.10.23
100mH	1	藤原 涼花	至学館大	14.16
	2	谷 優奈	中京大	14.34
400mH	1	北野 有紀	愛知教育大	1.00.34
	3	大谷友梨恵	加藤建設	1.01.44
3000mSC	1	神谷 もも	愛知教育大	11.33.43
	2	北郷 菜実	安城快足 AC	11.51.27
	3	諸富 愛奈	東京学芸大	12.00.00
4×100mR	1	白田菜々美	中京大中京高	46.73
		久野 なつ		
		澤井 萌奈		
4×400mR	1	長谷川愛樹	至学館高	3.47.08GR
		都築 美音		
		磯部 まみ		
		釜田 留奈		
3	時久 彩音	中京大中京高	3.48.13GR	
	白田菜々美			
	澤井 萌奈			
走高跳	2	兼川 乃衣	日本女子体大	1.71
	1	澤井 萌奈	中京大中京高	5.87
走幅跳	2	明星 光	豊田高	5.82

砲丸投	3	丹嶋あやめ	名城大附高	12.20
円盤投	1	丸山 夏美	至学館大	42.15
	2	徳岡 沙織	起ドリームA・C	41.85
ハンマー投	3	田口 優	中京大	53.03
やり投	3	石本 瞳	名古屋大谷高	48.18

**第33回東海小学生リレー競技大会
兼第2回東海小学生陸上競技大会**
2016年8月27日(土)・28日(日) パロマ瑞穂スタジアム

男子 (1位のみ)

種目	氏名	所属	記録
走幅跳	高橋 寛汰	JAC あつみ	4.75

女子 (1位のみ)

種目	氏名	所属	記録
6年100m	杉本 遥	AC一宮	13.61
ジャベリックボール投	堤 陽菜	東郷 AC	51.00
4×100mR	菅沼 梨瑚	豊橋陸上クラブ	54.93
	小酒井結菜		
	大場 万央		
	寺下 頼檜		

混合 (1位のみ)

種目	氏名	所属	記録
4×100mR	大場 琴華	豊橋陸上クラブ	53.79
	加藤 愛結		
	森山 夢菜		
	中野 知咲		

**第37回愛知県ジュニアオリンピック競技大会
第47回ジュニアオリンピック陸上競技大会愛知選手選考会**
2016年9月11日(日) パロマ瑞穂スタジアム

(クラス:A…中3 B…中2 C…中1 PJH:県中学新 ◎:大会新記録)

	種目	1位	2位	3位
男子A	100m	遠藤 耕介 11.24 碧南新川	大崎 雅人 11.38TSM	羽根田啓吾 11.40 六ツ美北
	200m	藤井 裕也 22.63 豊橋南陽	神谷 翔矢 22.89 長良	榎木 達也 23.10 日進西
	3000m	服部 凱杏 8.41.93 ◎ 千種	大岩 歩夢 8.48.85 東港	谷口 賢 8.57.57 青陵
	110mH (0.991m)	岩堀 剛己 14.94 ◎ 新香山	土屋 翔栄 15.36 六ツ美	加藤瑠乃祐 15.39 大森
	走高跳	田中 日向 1.81 古知野	佐藤 拓仁 1.80 大府北	市川 拓海 1.80 福岡
	砲丸投 (5.000kg)	渡辺 太陽 13.22 味美	山本 雷大 13.19 大高	渡邊 朗生 13.06 守山西
男子B	100m	筒井 健人 11.21 福岡	深瀬 京佑 11.37 岡崎東海	澤 孝輔 11.59 ハイテク AC
	1500m	安藤 圭佑 4.09.12 ◎ 豊川東部	柏木 那央 4.10.07 愛知陸協	中野 倫希 4.10.47 愛知陸協
	110mYH (0.914m)	鈴木 大河 15.50 扇台	加藤 雅大 16.26 吉良	橋本 尚吾 16.91 豊川西部
	走幅跳	杉浦 天斗 6.16 高橋	安田 雄咲 6.09 東浦北部	小原 拓麻 6.01 西尾一色
	砲丸投 (4.000kg)	加藤 翼 12.52 名古屋北	中川 拓真 11.68 豊橋東陵	鷹羽 玲 11.60 大府

男子C	100m	山下 侑牙 11.88 竜海	判家 悠也 12.11 豊川東部	濱田 晃成 12.24 TSM
	1500m	小倉 謙心 4.24.59 ◎ 豊橋南陽	榊原 海斗 4.26.83 安城北	小林鴻之介 4.30.24 吉田方
	走幅跳	中島 海翔 5.79 大府西	上村耕志郎 5.62 豊橋陸上クラブ	吉田 和輝 5.62 豊橋東部
男子A B C 共通	円盤投 (1.500kg)	小島 一世 40.23PJH ◎ 富士	伊藤 蒼真 35.63 TSM	水野 絢世 29.82 守山西
	ジャベリック スロー	堤 洗太郎 71.44PJH 平針	豊嶋 駿介 65.46 愛知陸協	藤田 仁厚 58.32 吉田方
女子A	100m	高須 鮎香 12.25 ◎ 城北	山下 裕梨 12.74 豊川東部	外園 愛梨 12.75 扇台
	200m	永井絵理香 25.10 ◎ 甲山	大城 珠莉 25.76 弥富	村木 未澪 26.14 逢妻
	3000m	野津 里実 9.56.93 宮田	水谷 怜愛 9.59.74 横須賀	松原 亜純 10.01.07 豊山JRC
	100mYH (0.762m)	佐竹 里野 14.86TSM	西川 知沙 14.89 二川	安藤 愛未 15.06 藤森
	走高跳	梶原 梨央 1.57 宝神	亀井希未香 1.57 大府西	1.54 神谷 京奈 依佐美 小寺 波音 六ツ美
砲丸投 (4.000kg)	平岩 志萌 11.26 ◎ 守山	清水菜々子 10.92 長良	木下 七海 10.60 高蔵寺	
女子B	100m	谷口 琴音 12.65 甲山	大井 サラ 12.70 TSM	竹川 綾乃 12.82 青陵
	1500m	小島向日希 4.47.10 AC一宮	川島 実桜 4.47.89 高師台	坂牧 紗衣 4.48.74 豊橋南陽
	100mH (0.762m)	伊藤 凜乃 14.49 ◎ TSM	鏡味 咲耶 14.69 ◎ 知多TC	齋藤みゆに 15.57 北陵
	走幅跳	椛山奈津子 4.90 高針台	三矢 遥菜 4.89 西尾一色	前田あすか 4.86 AC一宮
	砲丸投 (2.721kg)	中島 彩瑛 10.90 御幸山	小河 遥花 10.48 北陵	岩田やえの 10.41 守山東
女子C	100m	土居 心愛 12.79 ◎ 竜海	倉橋 美穂 12.86 上郷	岩月 遥 13.08 本郷
	800m	小澤 紗央 2.21.35 豊川東部	萩原 さや 2.21.56 田原東部	小山 愛結 2.23.65 六ツ美北
	走幅跳	松山明里咲 4.96 TSM	柴田 菜那 4.85 AC一宮	神田 彩名 4.83 TSM
女子A B C 共通	円盤投 (1.000kg)	天野ユリヤ 27.85 TSM	後藤 綾乃 27.66 萩原	岩室 紗花 27.35 御香山
	ジャベリック スロー	田中 友梨 53.75 藤森	江口 茜里 46.87 愛知陸協	渡邊日南代 45.00 平針

第71回国民体育大会
2016年10月7日(金)～11日(火) 北上総合運動公園陸上競技場

成年男子 (入賞のみ)

種目	順位	氏名	所属	記録
100m	1	長田 拓也	法政大	10.35
10000mW	6	山田 康太	順天堂大	40.44.75
円盤投	3	湯上 剛輝	トヨタ自動車	55.82

成年女子

種目	順位	氏名	所属	記録
100mH	2	小林紗夕香	愛知教育大	13.46
走高跳	8	浅井さくら	岡崎城西高	1.69

少年男子

種目	順位	氏名	所属	記録
A 400m	4	小久保友裕	桜丘高	47.91

A	ハンマー投	4	白藤 聖陽	安城学園高	60.15
B	走幅跳	1	中野 裕仁	名城大附高	7.15
共通	800m	2	山田 翔雅	愛知高	1.52.30
	110mH	7	八代 貢輝	古屋高	14.19
	走高跳	2	藤森 俊秀	岡崎北高	2.03

少年女子

種目	順位	氏名	所属	記録	
A	走幅跳	4	澤井 萌奈	中京大中京高	5.89
B	100m	6	高須 鮎香	城北中	12.16
共通	三段跳	8	糟谷 友里	名古屋商高	12.06
	やり投	7	石本 瞳	名古屋大谷高	46.78

成少年男子

種目	順位	氏名	記録
4×100mR	1	森 皓平、高橋 周治、 中澤 悠哉、長田 拓也	40.00

成少年女子

種目	順位	氏名	記録
4×100mR	4	高須 鮎香、杉山 美貴、 東 直美、市川 華菜	45.71

男女総合(天皇杯): 8位(92.5点)

女子総合(皇后杯): 17位(33.5点)

平成28年度愛知県高等学校定時制通信制秋季体育大会
2016年10月9日(日) 知多運動公園陸上競技場

男子 (GR:大会新 =GR:大会タイ)(1位のみ)

種目	氏名	校名	記録
100m	杉山 尚槻	豊橋昼	11.2 =GR
200m	稲垣 滉喜	科技刈谷	23.8
400m	齊藤 竜馬	豊橋昼	55.0
800m	神谷 悠斗	科技刈谷	2.11.8
1500m	神谷 悠斗	科技刈谷	4.40.8
5000m	山下 航生	科技刈谷	18.46.3
400mH	杉山 尚槻	豊橋昼	58.8 GR
3000mSC	稲垣 諒雅	岡崎工	12.06.3
4×100mR	稲垣・小幡・大塚・大木(科技刈谷)		47.0
4×400mR	坂口・杉山・清水・齊藤(豊橋昼)		3.47.3
走高跳	濱崎 優祐	科技刈谷	1.95 =GR
走幅跳	杉下 慶	科技刈谷	5.86
三段跳	齊藤 竜馬	豊橋昼	11.55
砲丸投	岡枝アラン	名南工	11.19 GR
円盤投	中垣内大貴	名南工	32.87
総合	科技刈谷		112点

女子 (GR:大会新)(1位のみ)

種目	氏名	校名	記録
100m	齋藤 美佳	科技刈谷	13.4 GR
200m	齋藤 美佳	科技刈谷	28.9
400m	濱野 那佳	科技刈谷	1.10.1
800m	小林 利江	愛知黎明	2.30.0 GR
3000m	小林 利江	愛知黎明	10.24.0 GR

100mH	春田玲穂奈	一宮	18.9
4×100mR	濱野・高須・孕石・齊藤(科技刈谷)		58.1
走高跳	光岡 奈穂	豊橋昼	1.22
走幅跳	ハイムンドチェミ	小牧	4.15
砲丸投	永津珠絵史	明和	8.18
円盤投	永津珠絵史	明和	22.22
総合	科技刈谷		44点

第32回日本ジュニア陸上競技選手権大会
第10回日本ユース陸上競技選手権大会
2016年10月22日(土)
パロマ瑞穂スタジアム 本県8位入賞のみ

男子ジュニア

種目	順位	氏名	学校名	記録
800m	1	伊藤 壮太	中京大中京高	1.52.06
	8	山田 翔雅	愛知高	2.01.04
棒高跳	8	石川 拓磨	中京大	5.00
砲丸投	4	白藤 聖陽	安城学園高	16.08

女子ジュニア

種目	順位	氏名	学校名	記録
100m	8	東 直美	豊橋南高	12.01
800m	8	長屋 美月	中京大中京高	2.13.67
走高跳	1	浅井さくら	岡崎城西高	1.73

男子ユース

種目	順位	氏名	学校名	記録
800m	3	鳥居 風樹	中京大中京高	1.53.48

女子ユース

種目	順位	氏名	学校名	記録
800m	6	宇野 佑紀	安城学園高	2.13.59
走高跳	7	小笠原早矢楓	安城学園高	1.62
	5	宮川 杏奈	三好高	12.09
三段跳	8	都築 陽奈	三好高	11.98
	6	平野 葉菜	安城学園高	45.90

平成28年度愛知県高等学校新人体育大会陸上競技大会
2016年9月24日(土)・25日(日) パロマ瑞穂スタジアム

男子

種目	1位	2位	3位
100m	酒井 颯大 10.76 大府東	梅谷 将成 11.01 名古屋	木下 博貴 11.05 中京大中京
200m	酒井 颯大 21.75 大府東	川端 功輝 22.01 西尾	為 悟 22.09 西尾
400m	篠原 宏輔 48.84 愛工大名電	前橋 竣耶 49.19 豊川	青木健史郎 49.46 名古屋大谷
800m	鳥居 風樹 1.56.75 中京大中京	伊藤理久也 1.57.81 愛知黎明	宇野 佑亮 1.57.99 岡崎城西
1500m	伊藤理久也 3.59.38 愛知黎明	中倉 啓敦 4.01.66 愛知	近藤 亨 4.01.69 愛知
5000m	蝦夷森章太 14.49.74 愛知	伊藤 太貴 14.50.65 岡崎北	植田 雅弘 14.59.21 愛知
110mH (1.067m)	吉田 潤平 15.03 滝	山本 聖真 15.13 東海	林 史也 15.14 一宮

400mH (0.914m)	伊奈 颯太 53.41 豊川	川口 拓人 54.06 豊橋南	杉野 蒼太 54.06 中京大中京
3000mSC	河村 悠 9.29.18 豊明	下村 航也 9.31.09 名経大高蔵	原田 翼 9.35.60 豊明
5000mW	鈴木 智大 22.23.24 明和	井上雄太郎 22.29.08 千種	山田 将也 22.32.44 明和
4×100mR	名古屋 42.15	大府東 42.38	岡崎城西 42.43
	伊藤 彰海 梅谷 将成 秋原 聡人 西出 航大	水野 翔太 西郷 航生 大田 竜也 酒井 航大	荻野 紳 氏田 貴之 中島 亨 鶴田 一志
4×400mR	成章 3.18.07	中京大中京 3.18.33	愛工大名電 3.18.79
	増池 優斗 鈴木 琢海 富田 弘太 光松 修平	杉野 蒼太 服部 匡恭 三田 大喜 鳥居 風樹	野瀬 大輝 成清 太綺 土射津佑起 篠原 宏輔
走高跳	杉田 光 2.00 岡崎城西	岡井 大靖 1.97 岡崎城西	落合 惇寛 1.97 名古屋西
棒高跳	増田 智也 4.70 中京大中京	加藤 綾太 4.50 豊川	齋藤 汰一 4.20 岡崎城西
走幅跳	磯部晃太郎 7.01 津島東	佐藤 智博 7.00 中京大中京	太田 光紀 6.76 名城大附
三段跳	幅田 真史 13.93 明和	半野 佑登 13.80 西尾東	磯部晃太郎 13.77 津島東
砲丸投 (6.0kg)	遠藤麻緒斗 14.11 春日井東	猪上 凌太 13.75 春日井東	鈴木健太郎 13.31 名古屋大谷
円盤投 (1.750kg)	齋藤寅次郎 36.12 名古屋	光岡 奨平 35.65 安城学園	猪上 凌太 35.63 春日井東
ハンマー投 (6.0kg)	牧野 倭士 45.53 名古屋大谷	元 遼 45.09 一宮工	山下 功起 44.00 緑丘商
やり投 (800g)	安藤 大智 59.15 緑	牧野 快士 57.06 一宮北	藤井 瑞樹 56.06 名古屋大谷
総合	中京大中京 49	岡崎城西 28	名古屋 26
トラック	中京大中京 38	愛知 24	大府東 17
フィールド	春日井東 19	名古屋大谷 18	岡崎城西 17

4×400mR	中京大中京 3.49.91	至学館 3.52.95	岡崎城西 3.53.60	
	山田真梨子 生田奈緒子 谷口なつ実 鈴木 朱音	都築 美音 磯部 まみ 大野 百花 井上 葉南	沖田 梨珠 山本 里菜 本多 理子 佐藤 琴美	
	走高跳	小笠原早矢楓 1.70 安城学園	菰田梨香子 1.67 安城学園	勝 成望 1.64 至学館
	棒高跳	水上 真里 3.40=GR 岡崎城西	加藤紗佳子 2.90 豊川	三上かな子 2.90 名古屋西
走幅跳	宮川 杏奈 5.64 三好	都築 陽奈 5.56 三好	加藤 早紀 5.54 光ヶ丘女子	
三段跳	宮川 杏奈 11.60GR 三好	平松 紗季 11.57GR 中京大中京	都築 陽奈 11.50GR 三好	
砲丸投 (4.0kg)	近藤 沙南 12.48 安城学園	丹嶋あやめ 12.26 名城大附	木村 飛実 11.40 至学館	
円盤投 (1.0kg)	小原 桃華 37.69 名古屋大谷	平野 優花 36.10 愛知黎明	田中 彩菜 31.88 明和	
ハンマー投 (4.0kg)	平野 葉菜 41.87 安城学園	竹下 真由 38.95 大府	東 輝 38.70 安城学園	
やり投 (600g)	近藤 沙南 44.49 安城学園	熊崎菜奈子 44.25 名古屋大谷	梶 蒼依 42.29 瑞陵	
総合	安城学園 66	中京大中京 62	至学館 46	
トラック	中京大中京 53	至学館 36	安城学園 29	
フィールド	安城学園 37	三好 21	名古屋大谷 14	

第19回東海高等学校新人陸上競技選手権大会
平成28年10月29日(土)・30日(日) パロマ瑞穂スタジアム

男子 (3位までの入賞分)

種目	順位	氏名	学校名	記録
100m	1	酒井 颯大	大府東	10.62
400m	1	前橋 竣耶	豊川	49.18
	3	篠原 宏輔	愛工大名電	49.57
800m	1	鳥居 風樹	中京大中京	1.54.76
	2	宇野 佑亮	岡崎城西	1.55.33
	3	筒井 航佑	時習館	1.55.60
1500m	1	中倉 啓敦	愛知	4.12.18
	2	高橋 登也	名経大高蔵	4.12.60
5000m	2	植田 雅弘	愛知	14.48.93
110mH	3	吉田 潤平	滝	14.93
400mH	1	伊奈 颯太	豊川	54.35
	3	柵木 友幸	安城学園	55.11
3000mSC	1	下村 航也	名経大高蔵	9.39.55
	2	原田 翼	豊明	9.42.34
5000mW	1	鈴木 智大	明和	22.17.35
	2	山田 将也	明和	22.24.89
	3	井上雄太郎	千種	22.38.94
4×400mR	2	高橋 舞羽 木下 博貴 三田 大喜 鳥居 風樹	中京大中京	3.19.15
	3	増池 優斗 鈴木 琢海 富田 弘太 光松 修平	成章	3.19.61
走高跳	2	杉田 光	岡崎城西	1.99
	3	落合 惇寛	名古屋西	1.96
棒高跳	1	増田 智也	中京大中京	4.60

女子 (GR:大会新 =GR:大会タイ)

種目	1位	2位	3位
100m	長谷川愛樹 12.34 中京大中京	山本 里菜 12.52 岡崎城西	神谷 優奈 12.52 刈谷北
200m	長谷川愛樹 25.14 中京大中京	古橋 佳奈 25.23 安城学園	佐藤 琴美 25.46 岡崎城西
400m	磯部 まみ 55.93 至学館	山田真梨子 57.00 中京大中京	杉浦 奈央 57.38 愛知
800m	井上 葉南 2.12.84 至学館	相場 里咲 2.13.07 豊橋南	山田真梨子 2.14.60 中京大中京
1500m	宇野 佑紀 4.39.18 安城学園	近藤 望未 4.39.39 中京大中京	井上 葉南 4.39.95 至学館
3000m	近藤 望未 9.48.69 中京大中京	石田 龍花 9.50.09 愛知黎明	原 舞奈 9.59.14 豊橋東
100mH (0.840m)	古橋 佳奈 14.20 安城学園	江頭 亜美 14.91 安城学園	吉田 美星 14.92 津島
400mH (0.762m)	吉田 美星 1.02.00 津島	佐野 文香 1.03.78 岡崎北	村尾 麻里 1.04.07 天白
5000mW	駒澤 杏美 25.46.46 惟信	鈴木 紫陽 26.03.29 豊橋東	吉川 佳歩 26.11.74 千種
4×100mR	岡崎城西 47.67	中京大中京 48.00	至学館 48.60
	沖田 梨珠 山本 里菜 佐藤 琴美 深町 優衣	岩越 麻弥 平松 紗季 天神 綾音 富塚 日南々	都築 美音 安原 愛美 森田 祐美 磯部 まみ

走幅跳	2	佐藤 智博	中京大中京	7.02
三段跳	2	磯部晃太郎	津島東	14.09
やり投	1	東 征甫	愛知教育大附	57.09
	2	石井 裕	名古屋	55.59

女子 (GR:大会新 =GR:大会タイ)

種目	順位	氏名	学校名	記録
100m	1	長谷川愛樹	中京大中京	12.06
	3	山本 里菜	岡崎城西	12.20
200m	2	長谷川愛樹	中京大中京	25.05
400m	2	杉浦 奈央	愛知	57.51
800m	2	相場 里咲	豊橋南	2.13.15
1500m	3	近藤 望未	中京大中京	4.39.75
3000m	1	近藤 望未	中京大中京	9.42.86
	3	国立 華蓮	至学館	9.51.07
100mH	1	古橋 佳奈	安城学園	13.97
	2	江頭 亜美	安城学園	14.20
400mH	2	吉田 美星	津島	1.02.68
5000mW	2	駒澤 杏美	惟信	25.00.52
4×100mR	1	柴崎 五月 平松 紗季 澤井 萌奈 久野 なつ	中京大中京	47.59
	3	宮川 杏奈 都築 陽奈 有川那菜聖 柳原 萌	三好	48.94
4×400mR	1	山田真梨子 生田奈緒子 谷口なつ実 鈴木 朱音	中京大中京	3.53.54
走高跳	1	小笠原早矢楓	安城学園	1.73 =GR
	2	大坂 美乃	明和	1.67
棒高跳	1	水上 真里	岡崎城西	3.60
走幅跳	1	吉村 月乃	岡崎城西	5.80
	2	宮川 杏奈	三好	5.69
三段跳	1	宮川 杏奈	三好	12.00 GR
	2	都築 陽奈	三好	11.91
砲丸投	1	近藤 沙南	安城学園	12.93
	2	丹島あやめ	名城大附	12.37
円盤投	1	小原 桃華	名古屋大谷	37.14
	2	平野 優花	愛知黎明	36.41
ハンマー投	3	平野 栞菜	安城学園	44.24
やり投	3	熊崎菜奈子	名古屋大谷	43.46

男子

区間	氏名	学校名	記録
第1区 (10km)	蝦夷森章太	愛知	30.29
第2区 (3km)	伊藤理久也	愛知黎明	8.47
第3区 (8.1075km)	野村 翼	岡崎城西	24.45
第4区 (8.0875km)	黒柳 陽汰	豊川	25.15
第5区 (3km)	山下 和希	愛知	8.27
第6区 (5km)	永田 一輝	豊川	15.16
第7区 (5km)	山本 起弘	豊川	15.14

女子

区間	氏名	学校名	記録
第1区 (6km)	猿見田裕香	豊川	19.04
第2区 (4.0975km)	浅田 遥香	豊川	13.16
第3区 (3km)	夏目ゆうか	豊川	9.56
第4区 (3km)	加瀬 花	豊川	9.46
第5区 (5km)	宮永 光唯	豊川	17.08

第30回愛知県小学生陸上競技選手権大会
2016年11月3日(木・祝) 知多運動陸上競技場

少年 (ER:県小学生最高記録 GR:大会記録)

種目	1位	2位	3位
4年50m	平林 駿登 7.47 安城ジュニア	高井 佑太 7.59 JAC武豊	梶山 泰輔 7.61 ハイテク AC
5年100m	寺下 頼檜 13.66 豊橋陸上クラブ	堀 紘輝 13.74 安城ジュニア	中山二千翔 13.80 東浦 AC
6年100m	浅井 駿輝 12.49 なごや陸上	池田 駿大 12.52 AC一宮	香山 勇輝 12.89 東郷 AC
5年80mH	天野 友貴 13.38 TSM	鈴木 哉汰 13.41 TSM	岩本 清成 14.20 TSM
6年80mH	江崎 光輝 13.17 TSM	青山 幸平 13.22 TSM	岡副 周平 13.25 布袋陸上クラブ
6年4×100mR	AC一宮 51.16 佐藤 元哉 池田 駿大 中西 尊琉 石田 大河	安城ジュニア 52.47 岡田 拓也 加藤 真浩 杉山 海月 高木 海佑	JACあつみ 53.48 清田虎太郎 小川 颯 清田竜之介 高橋 寛汰
5年走高跳	小林 航大 1.30 TSM	小田隼太郎 1.15 東浦 AC	大島 諄也 1.15 布袋陸上クラブ
6年走高跳	高木 翔大 1.33 OBU エニスポ	清水 翔 1.33 なごや陸上	杉浦 壮真 1.30 たかはま陸上
4年走幅跳	中野 彰人 4.01 JAC武豊	鬼頭 孝征 3.94 JACあつみ	片山 塔揮 3.77 JACあつみ
5年走幅跳	森部 諒 4.37 JAC武豊	外山 晏気 4.17 豊川 AC	古橋 航青 4.04 知立ジュニア
6年走幅跳	田中 瑛一 5.19 田原陸上クラブ	西脇 巨毅 4.78 知立ジュニア	寺田 在里 4.45 刈谷 AC
4年ジャバリックボール投	鈴木琥太郎 50.44 GR ER TSM	廣瀬 行成 43.41 GR ER いっしき陸上	北岡 知也 42.60 GR ER たかはま陸上
5年ジャバリックボール投	渡辺 陸 54.19 GR,ER JAC武豊	永井 海 50.21 安城北部小	木村 慶多 48.42 JACあつみ
6年ジャバリックボール投	河合 大地 59.13 GR ER JACあつみ	田中 亮輔 55.78 作野 AC	牛田英之介 53.63 稲沢 AC
6年二種競技A	川口 遥己 1429 JAC武豊	申田 幸陽 1054 OBU エニスポ	多木良太郎 975 刈谷 AC
6年二種競技B	小川 颯 1568 JACあつみ	高橋 寛汰 1426 JACあつみ	高橋 大地 1395 なごや陸上

平成28年度愛知県高等学校駅伝競走大会

男子第67回・女子第28回全国高等学校駅伝競走大会愛知県予選会
2016年11月6日(日) 知多運動公園陸上競技場~市道北浜金沢線
(男子:42.195km・女子:21.0975km)

順位	男子		女子	
	学校名	タイム	学校名	タイム
1	豊川	2.08.46	豊川	1.09.10
2	愛知	2.09.44	光ヶ丘女子	1.11.02
3	中京大中京	2.10.59	岡崎学園	1.12.42
4	岡崎城西	2.11.00	岡崎城西	1.13.48
5	名経大高蔵	2.12.36	千種	1.14.16
6	豊川工	2.14.36	安城学園	1.14.54

少女 (ER: 県小学生最高記録 GR: 大会記録 =GR: 大会タイ)

種目	1位	2位	3位
4年 50m	佐藤 俐有 7.61 田原陸上クラブ	手嶋 咲貴 7.85 安城ジュニア	加藤 愛菜 7.85 豊橋陸上クラブ
5年 100m	熊本 彩 13.97 豊橋陸上クラブ	小酒井結菜 14.08 豊橋陸上クラブ	伊藤 千夏 14.23 田原陸上クラブ
6年 100m	土居 幸愛 12.73 GR 岡崎 JAC	北田野々花 13.01 GR 岡崎 JAC	藤井 鈴奈 13.11 岡崎 JAC
5年 80mH	田島七里香 12.74 TSM	松浦 紗良 14.15 TSM	稲垣 萌花 14.15 安城北小
6年 80mH	中西百萌佳 12.28 TSM	坂口 由花 12.96 TSM	佐野萌々春 13.12 豊川 AC
6年 4×100mR	岡崎 JAC 51.66 GR 藤井 鈴奈 土居 幸愛 藤江 美空 北田野々花	AC 一宮 54.04 山崎 美祐 杉本 遥 小島 希望 井貝 華央	TSM 54.54 坂口 由花 坂井 寿々 古賀月姫乃 中西百萌佳
5年 走高跳	山内 梨聖 1.32 =GR なごや陸上	脇田サラ愛香 1.25 TSM	永井 莉子 1.15 作野 AC
6年 走高跳	今井 亜美 1.30 上郷 JAC	二村菜津乃 1.30 TSM	木村 海優 1.30 知立ジュニア
4年 走幅跳	高木 遥沙 3.64 OBU エニスポ	岸本 侑里 3.62 TSM	ワネケジュリエット杏奈 3.60 へきなん陸上
5年 走幅跳	武井 葉夏 4.60 GR ER なごや陸上	松村 琴都 4.07 TSM	片山 由梨 3.99 JAC あつみ
6年 走幅跳	菅沼 瑠璃 4.51 田原陸上クラブ	大嶋 心寧 4.44 JAC 武豊	榊原 未彩 4.40 たかはま陸上
4年 ジャベリックボール投	中村 文香 38.49 GR ER TSM	河合 南菜 33.96 GR JAC あつみ	高木 海羽 31.71 GR 十四山体育クラブ
5年 ジャベリックボール投	木村 優星 42.75 GR 知立ジュニア	石田 美佳 37.45 TSM	久保 凜奈 36.91 豊橋陸上クラブ
6年 ジャベリックボール投	中田 瑠乃 48.13 GR 橋 AC	堤 陽菜 46.41 GR 東郷 AC	河合 里奈 42.38 GR 知立ジュニア
6年 二種競技 A	堤 愛花 1579 大須 AC	坂井 寿々 1543 TSM	堀 丹音 1514 豊川 AC
6年 二種競技 B	井貝 華央 1722 AC 一宮	安藤 虹春 1496 たかはま陸上	清田 朋花 1455 JAC あつみ

男女混合

種目	1位	2位	3位
4年 4×100mR	安城ジュニア 58.97 松原 帆南 手嶋 咲貴 山崎 鉄馬 平林 駿登	豊橋陸上クラブ 59.50 河合 美駒 加藤 愛菜 杵名 修吾 大武 滉征	田原陸上クラブ 59.55 渡辺 栞夏 佐藤 俐有 藤村 航成 鈴木 琉聖
5年 4×100mR	豊橋陸上クラブ 55.45 熊本 彩 小酒井結菜 山本 琉誠 寺下 頼檜	安城ジュニア 55.54 松浦 加奈 新家あさひ 松永航太朗 堀 紘輝	TSM 55.62 松浦 紗良 田島七里香 岩本 清成 天野 友貴

理事会等会議報告

○8月理事会 28年8月9日(火) 18:00 パロマ瑞穂スタジアム

1 協議事項

- ①第71回国民体育大会愛知県代表選手団(役員・選手)の選考について
- ②その他

2 報告事項

- ①国体代表選手の強化合宿について
- ②日本ジュニア・ユース選手権大会について
- ③マラソンフェスティバル ナゴヤ・愛知 2017 について
- ④全国高校陸上競技大会の成績について
- ⑤第42回全日本中学校陸上競技選手権大会出場者
- ⑥各専門委員会報告
- ⑦その他 (水野 隆夫)

栄章

おめでとうございます

平成28年10月7日(金)～11日(火)第71回国民体育大会「希望郷いわて国体」において、会場の「北上総合運動公園陸上競技場(北上市)」で表彰式が行なわれました。日本陸上競技連盟より表彰を受けられた方は次の皆様です。心よりお祝い申し上げます。



- (秩父宮章) …日本陸連・加盟団体への功労者
桜井 一美 (愛知陸協理事・西三河陸上競技協会理事長)
 - (高校優秀指導者章) …高校生指導者としての功労者
谷 政人 (名城大附属高等学校)
 - (中学優秀指導者章) …中学生指導者としての功労者
石場 治 (豊橋中部中学校)
- (水野 隆夫)

おくやみ

長年本県の陸上競技の発展のため、多大なるご尽力をいただきましてありがとうございました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。(敬称略)

逝去者氏名 逝去年月 支部名
野澤 正治 28・9 西三河

編集後記

◇大きな大会が続いた今年のトラックシーズンも終わり、ロードレース・駅伝のシーズンが始まった。◇智恵と努力で、東京オリンピックやアジア大会など先を見据えた選手育成と競技運営が望まれる。◇多くの方々の寄稿に深謝。

編集委員

- 大西 敏功 小坂 拓 鈴木人呂信 竹前 正直
- 茶谷 和彦 新見 精三 野口 一昭 山下ゆかり
- 横田小百合